

統計茨城

1960.5

目次

| | |
|----------------------------|----|
| 統計処理における電信の利用……………平野元…… | 2 |
| 1960年世界センサスについて……………森 数樹… | 6 |
| 登労者世帯の昭和34年の家計は楽だつた…………… | 8 |
| 孝行西へ行く……………美濃部亮吉… | 11 |
| 平軸・縦軸…………… | 12 |
| 【図表】図で見る県民所得と農林水産業の関係…………… | 13 |
| 3月人口世帯異動調査結果(35.3月分)…………… | 15 |
| 3月勤労統計調査結果(35.2月分)…………… | 17 |
| 色々の表…………… | 21 |
| 昭和35年国勢調査とはどんな調査か…………… | 22 |
| 新市町村の横顔(瓜連町の巻)…………… | 23 |
| 統計と政治…………… | 24 |



豚



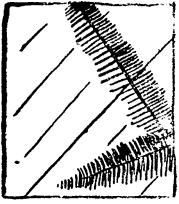
人間のベビー・ブームには興味がないから、豚のベビー・ブームといこう。昔支那では女の子が生まれると売りに出したというが、こう文明が進んでは、人の子を売りに出すのも人道に反するというわけで、専ら

豚に子を生ませて金を稼ぐ所業とは相成つた。

本県のいわゆる新市町村を歩いて見ると、これからは米麦中心の畑作経営を改めて、有畜農業に転換させるというわけで、にわとりに卵を生ませたり、うさぎに子供を生ませたり、豚に子を生ませたり忙しい話である。

本県は日本一の豚の産地であることは、本誌1月号にも書いたが、なぜ本県に豚が多いかを考えて見たら、かんしよの産地は又豚の産地でもあるようだ。鹿児島しかり、千葉、愛知、静岡みなしかり。そういえば、豚の感じと、かんしよの感じは何か似たところがある。

小売物価統計によると、水戸の豚肉400gの値段は昨年は170円であつたのが、今年2月は220円と値上りしている。せいぜい豚のベビー・ブームで格安のトンカツを食べて見たい。



統計処理における電信の利用

日本電信電話公社 平野元一

1. はじめに

おそらく大多数の方が題名をみられただけでは、この小文の内容が推測出来ないのではないかと思います。最近日本におきましても、特に大企業の場合に事務の合理化、経営管理の科学化といった面から統計処理をオートメーション化する傾向がみられています。この場合、統計処理の主役は電子計算機ですが統計数値の伝送という問題に関連して電信を利用するケースが多くなっております。

この小文では、これらの事をとり上げ皆さんの参考までに解説めいた事を書きたいと思っておりますが、私は統計処理系についての専門家ではありませんので、主として電信技術者のはしくれとしての立場からこの問題を論じたいと思っております。

2. 統計処理と電信

最近、経営学とよばれる学問が流行していることは衆知のとおりですが、これらを取扱った雑誌の中で、IDPという略語に時々お目にかかります。これは Integrated Data Processing の略ですが強いて訳せば資料収集処理系と言えらると思えます。

このIDPの目的とするところは、従来とかく勘に頼りがちであった企業経営の方針を確立するのに科学的に且現実の立場から決定するという経営管理の第一段階として各種統計を迅速に且正確に処理するところにあると言えます。即ち従来の統計処理の方法ではどうしても最終数値を把握するに早くて2~3日、遅いときには数カ月要していた統計処理を、電子計算機と電信とを駆使することにより即日おそくも翌日には最終数値を把握するようにするためのものです。

では、どのようにしてこの目的を達成しているのでしょうか、判りやすく一例により説明いたします。

ある企業の営業担当重役が全国に散在する支店、出張所で販売されている品物の数量を把握したいと希望しているとしましょう。

この場合、今までの方法ですと、まず営業担当者が品物を販売するたびに売上伝票を作りこの一日分を品目別販売先別等に分類しましてそれぞれの帳簿に転写する一方、必要ならば日計表を作成し、上部機関に郵送します。上部機関では自己の分および下部機関分の日計表を

それぞれ集計して浄書の上、本社に郵送する。本社ではこれらをさらに集計、浄書して重役に提出するという過程がふまれており、その間、早くて数日の日時を必要とします。

しかし近代化された進歩的大企業では違います。本社には電子計算機を設備した計算センターがあり、各事業所で作られた売上伝票は即刻計算センターに直通の電信線を通して送りこまれてきます。計算センターでこれらの受信した生の伝票を支店別、品目別等に計算機が直ちに計算作表しますから、4月1日の売上は2日には重役の手許にとどける一方、電信線を通して各支店にもとどけられます。このような迅速な処理、これこそIDPの本命であります。

ところで電子計算機は次のような性格をもっています。即ち

- (1) 計算速度が早い…この性格を十分活用するには資料を郵送したり使送するのでは十分ではありません。
- (2) コストが高い…したがって各事業所に設置するのは(1)の性格と相まって不経済です。
- (3) 計算は通常パンチカードと呼ばれる所望の記号を穿孔したカードを用いてなされる…このため電話で資料をききとつたのでは速度も遅いし、カードを穿孔する必要が生ずる。

しかも、統計処理に通常使用される計算機はdigital形のものでありますので、本質的にdigitalな電信を活用することが前記の計算機の性格と相まって、IDPを十二分に駆使しうる前提となることが理解されたと思えます。

3. 電信と計算機

前述の説明で、統計処理と電信の結び付きを理解いただけたいと思いますので、ここで電信について少し詳しく説明したいと思います。

おそらく大多数の方が電信というと不吉な電報、又はトンツとよばれるモールス電信を連想されるのではないのでしょうか。しかし現代の電信はビジネスオートメーションの先端を行くものであり、その方式も印刷電信とよばれるものが主流をなしています。したがってここでは印刷電信について話を進めることにしますが、印刷電信といつても、いくつかの異なる方式がありますので、ここでは主として電々公社の使用しています和文6単位2段シフトテープ式といわれるものを主とした説明

をします。

モールス電信の場合は、モールス符号と呼ばれる。

イ — — —
ロ — — — — —

といった短点と長点の組合せによる文字によつて異なつた長さをもつ符号を使用していますが、印刷電信では、マーク(M)とスペース(S)と呼ばれる2種類の同じ時間長の符号をいくつか適当にならべることによつて作

第1図 和文印刷電信符号

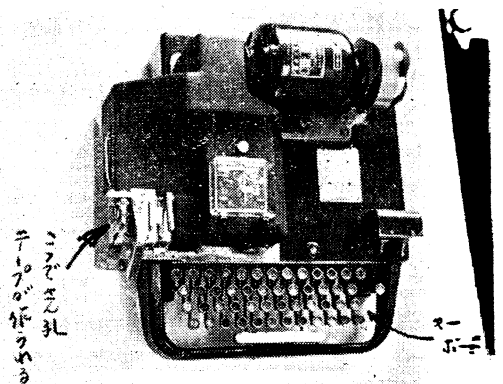
| 下 段 | 上 段 | 符 号 | | | | | | 電 流 | | | | | | |
|--------|--------|-----|---|---|---|---|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | |
| イ | 卅 | ○ | ○ | ○ | ● | ○ | ● | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| ロ | | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| ハ | 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| ニ | 訂 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| ホ | 一 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| ヘ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| ト | セ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| チ | 五 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| リ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| マ | 又 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| ル | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| ヲ | オ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| ワ | オ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| カ | レ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| ヨ | 六 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| タ | ユ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| シ | ノ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| ソ | ル | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| ネ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| ナ | 九 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| ラ | コ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| ム | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| ウ | セ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| ノ | ノ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| 空白 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |

(注) ● M符号 ○ S符号

| 下 段 | 上 段 | 符 号 | | | | | | 電 流 | | | | | | |
|--------|--------|-----|---|---|---|---|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | |
| ク | 三 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| ヤ | 〇 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| ケ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| フ | ニ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| コ | 四 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| エ | 五 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| テ | 、 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| ア | 心得 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| リ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| サ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| キ | 一 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| メ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| ミ | ? | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| ヒ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| モ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| セ | へ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| ス | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| ン | ハ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| ミ | 。〇 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| 上段 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| 下段 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| 改行 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| 復帰 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| 間隔 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| 信号 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |
| 抹消 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | /// | /// | /// | /// | /// | /// | /// |

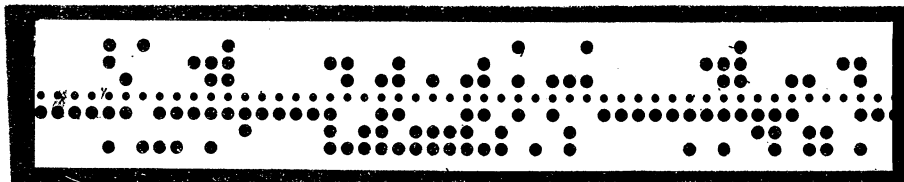
られます。この単位となる符をいくつならべるかが5単位又は6単位と呼ばれる方式名で示されています。通常は第1図に示しますように和文は6単位、欧文は5単位を用いています。この符号で上段、下段といひますのは欧文タイプライターで大文字、小文字の区別にタイプバーの打点を上下させていますように、印刷電信でも同じ符号を使いわけしています。たとえばイと卅とは同じ符号ですが先行符号が上段符号か下段符号かによつてこれを区別します。(1度上段符号が入りますと次に下段符号がくるまで上段の字を必ずえらびます。この逆も同様です。)これが方式でいう2段シフトで後でのべます受信機がもつている機能です。

第2図 送 信 機



これらの符号はモールス電信のように手で作るのでは大変なことです。実際には第2図の写真の鑽孔機によって作られます。鑽孔機のキーボードを欧文タイプのキ

第3図 鑽孔テープの例

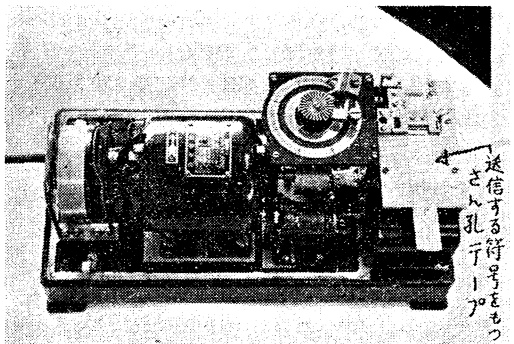


トウケイ バラキ ニホン デンシン デンワロウシャ イ バラキツウシンシンプ

して示したもので、●は穴のあいていること○はあいていないことを示しています。又中央の小さい○はテープを繰出すためのものです。

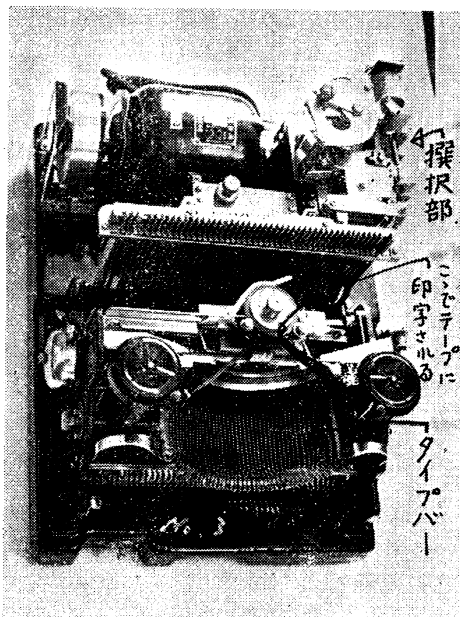
こうして作られました鑽孔テープを送信機(第4図)に

第4図 送信機



かけますと、テープの符号に応じまして第1図のような電流が電信線に送出されます。この送出はただテープを

第5図 受信機



ーボードをたたきますようにたたきますと細長いテープに、たてに1字分がM符号のところだけ穴をあけた形で作り出されます。第3図は鑽孔テープの状態をモデル化

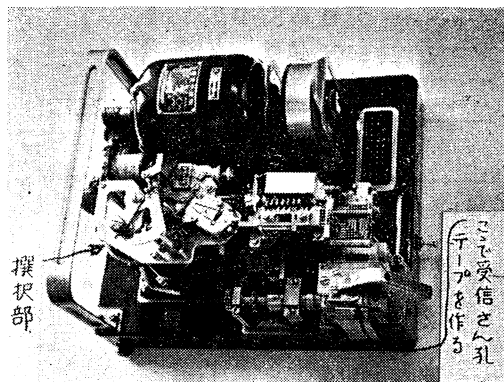
かけて、スイッチをおすだけで出来ますから、タイプをたたくのと同じ手間で送信が出来ることになります。

さて、電信線に送出されました電流は有線又は無線で伝送され、送信側とほぼ同じ形のまま受信側に到着します。

受信機(第5図)はこの受信電流をうけまして、まず選択部が動作することによりどういう符号がおくられてきたかを識別し、その符号に相当する文字のタイプバーを選び出して紙に印字させます。この印字形式が細長いテープに1行で印字するものが、方式でいうテープ式でして、普通のタイプのように通常の紙面にタイプ印書の形で印字するものがページ式であります。

ここで受信機の代りに受信鑽孔機(第6図)を接続し

第6図 受信さん孔機

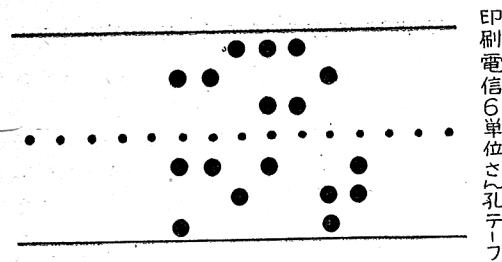
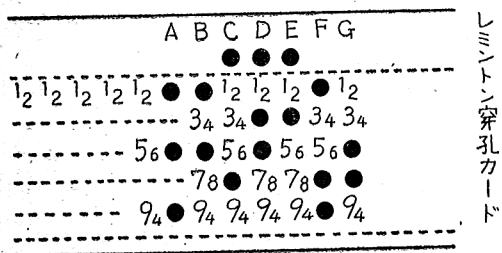
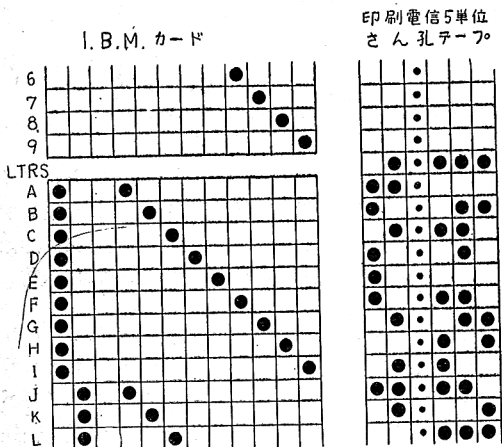


ておきますと、丁度送信側で使用しましたのと同じような鑽孔テープを作ることも可能であります。いずれにしても、受信側では単に監視しているだけで送られてきた文字を印字又は鑽孔してしまいます。したがって、印刷電信を使用する上では、鑽孔機をたたきさえすればよいこととなりますので、普通の人でしたら2~3週間の訓練でマスター出来ますし、特に欧文印刷でしたら欧文タイプとほとんど同じに扱えますので欧文タイプストは1日も訓練すればすぐ印刷電信を使うことが出来ます。

ところで計算機は、形式によつて若干異なりますがとにかく digital 形のものであれば入力はやはり鑽孔(計

算機では穿孔という言葉を使うようですが)されたものと与えられます。例えばIBMでは12単位、レミントンでは6単位の符号(第7図)を使用しています。この第7図の符号と第1図の符号とを比較してみてください、一見あまり似ていないとも考えられますが

第7図 計算機せん孔符号の一例



- (1) 特定数の一定した単位数から作られている。
- (2) 単位符号は穴があいているか、いないかという2種類のうちのどちらかである。

というように符号形式からみますと、本質的に同じものであります。したがって印刷電信符号と計算機符号間の変換はごく簡単になしうるものですし、どちらかの符号形式を相手と同じものにするということも可能であります。これらの類似性はいずれも digital なものであることから生ずるものですが、analog 形計算機でも入力にコンバーターを付加すれば digital な入力を使用することも出来ますから差支えありません。

今まで、計算機と電信を結びつける上でのよい点ばかり論じてきたわけですが、決してこの間に問題がないわけではありません。

それは完全に計算機に利用する立場から設置された電信線が実際上まだないことです。勿論、各企業体は現在の法律から言えば自ら専有する電信線を作ることは可能ですが、電柱1本建てるのに1万円もしたり、無線機に数百万円をかけたりにして、全国的なネットワークを組むことはほとんど不可能といつてよいでしょう。従つて一般には全国の電信サービスを独占的に経営している電々公社の施設の一部を賃借することになります。しかし、電々公社はIDPに使える電信線というものを研究はしていますが、まだ実用化していませんので、一般の電信線を利用する以外に方法はありません。このため概略、次のような制約をうけることになります。

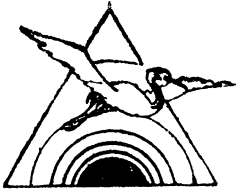
- (1) 電信線の端末に設置する送信機、受信機等の機器は電々公社の定めた技術基準に適合しているとの認定をうけたものでなければなりません。
- (2) 電信線に送出する単位符号の時間長は20ミリ秒以上のものでなければなりませんので、一般に計算機の計算速度にくらべて…資料の伝送速度が遅いざらひがあります。
- (3) 電々公社では賃貸している以上、一定の品質を保持しうる自信がない限り電信線を貸しませんので、地域的に電信線を作れない区間が出来ることもあります。
- (4) 一般の通信の場合には、電信線の規格として、1万字に1字以下の誤りの確率を許容しうると考えていますので、大体この程度の品質となつております。しかし、IDPとして使用する時はこの確率を1桁も2桁も上げる必要があるため、特殊な誤字訂正機構を付加しなければならないことがあります。

これらの制約は、本質的なものではありませんので、現在でも解決しうる道はありますが、とにかく簡単に皆さんが計算機と電信線とを結びつけようとした時に、技術的な障害となることは事実でありますので、電々公社としても前述のとおり鋭意研究を進めており遠からず計算機と電信線とを有機的に結合したIDPが実現するのではないかと考えております。

4. 応用例

計算機と電信線とを組合せた統計(又は広く事務)処理系の実例をいくつか

- (1) IDP…前述のとおり主として企業の経営統計の処理に用いられているものです。
- (2) 発送電制御系…各発電所の貯水量、流水量をコントロール室で監視しつつ、一方需要電力量をにらみつつどの発電所でどの位発電したらよいかを決定する系
- (3) 台風予報系…各測候所の気圧、風速、降水量をうけ



1960年世界センサスについて

統計審議会委員
日本大学 教授 森 数 樹

1. ワールドセンサス

ことは西歴1960年にあたり、多くの国々が手を携えてセンサスを実施する年である。わが国もまた10月1日午前零時を期して国勢調査の名のもとに、人口調査が施行されるのである。勿論国によつては翌1961年にセンサスが実施されることになっている。この意味においてワールドセンサスといわれている。

わが国が法律に基づいて国勢調査の名のもとで、近代的な人口調査を施行したのは、大正9年1920年のことである。多くの国では18、9世紀に第1回のセンサスを実施している。英仏は1801年であり、米国の如きは憲法第1条において、おそくとも1790年までに第1回の調査を行い、爾後10年毎に施行すべきことが規定されている。

そんなわけでことはわが国ではワールドセンサスの一環として国勢調査が行われ、さらに事業所統計調査、工業調査、農業センサスと多彩なセンサスが施行される統計関係者にとつて、千載一遇といわうか日頃の腕前を發揮すべき記念の年である。

2. 集計のこと

むかしのことはさておいて、調査をすると尨大な資料が集まる。これに基づいて計算することは大変な仕事で

ある。明治以来1単位ごとに資料を集めて計算する単位徴収式個票集計と呼ばれる方法で計算をやり出したのは明治31年以降である。私が直接関係した第1回国勢調査の集計経験でも10年以上の年月を要した、それは入手で凡べてを処理しようとしたからである。それで一部機械作業に切り換えたが能率が悪く、穿孔機の方はどうやら私共の考案した機械で間に合つたが、分類集計に至つては私共の考案した機械はまるで役に立たず、しかも関東大震災で焼失したりして、散々な目にあい、遂に10年という才月を要した。爾来外国製の機械を購入し、昨今の如きは集計とさえいえば、機械集計を指すほど機械化された。その結果計算は迅速となり、しかも正確であるために、段々に結果の公表が早くなり、精彩を極めてきた。5年後にはほとんど結果が公表されるようになった。利用上その効果は一層上がるようになった。こんどは3年位で全部完了する優れた機械が入手されるわけである。隔世の観がある。

3. 調査員のこと

このことで思い出されるのは調査員のことである。いくら集められた資料からの整理が進歩しても、もとなる資料の内容が正確でなければ、その効果は十分であるとはいえない。第1回国勢調査のときを思い出すと、

(前頁より続く)

て台風の進路を予報する系

- (4) 防空監視系…外国からの侵略機又は誘導弾等の進入の情報を前進監視所からうけて対抗機の出発又は妨害弾の発射をつかさどる系

5. あとがき

以上、簡単に説明いたしました、読みかえましてはたして皆さんに御理解いただけるかどうか疑問を感じ

ています。又、電々公社も紺屋の白ばかまでまだこのような統計処理を実施するところまでいつておりません。これらの点まつたく冷汗ものですが、この小文が多少なりとも皆さんの御参考になりましたら幸いです。私でお答えできることでしたら御質問にも応じたいと思っておりますので

水戸市田見小路 茨城電気通信部 計画課

Tel 水戸 4 1 9 4 (代)

まで御連絡下さい。

国民全般の協力と努力とは大したものであつた。殊に調査員を初めて大規模に編成するに当つて、各部落の有力者が第一に名誉と考へベストを尽して仕事に従事するという気はくに満ちていた。従つて調査員手当の如きは問題でなかつた。僅かに手当を超える支出をしてまで、この仕事を立派に仕遂げるといふ熱心さであつた。その上に調べる事柄も8項目の簡単なものであつたために第1回してとはまず大成功であつたといえる。これに対して戦後から今日にかけて地方からは調査員になり手がないという声をしばしば耳にする。これは勿論時勢の変化ではあるが、調査が余りに多く、ものによつては余りに突込んだことを調べる、いやそれにも増して手当が少な過ぎること等が重なり合つて、調査の危機とさえいわれている。ために長年調査員手当の増額が問題にされた。それが僅かではあるが、漸く今回増額されたのである。調査員一同の声が認められたわけである。今後も努力を続けて調査員の労に報いたいと思うが、とにかくおめでたいことである。国民側にあつてももう税金に使われるからという心配もあるまいと思う。一つに調査員の努力を願うところである。

4. 国民の協力と申告

この際声を大きくしていいたいのは、国民の心からの理解と協力を得たいことである。よしいくら調査員が目覚ましい努力をしても、一般国民の協力が得られなけれ

ば、調査の成功を取めることはできない。政府としても戦後いろいろの方法によつて、統計に対する理解を得るために努力してきた。相当の税金をさいて行つた調査で、その結果得られる統計は国家国民の共有物である。それが正しくなければ、結局その利害は国民にはね歸つてくるのである、正直にありのままの申告を望むや切なるものがある。申告の義務があるとかいうものではなく、国民として申告の権利があると考えたい。不実の申告をすれば罰則があるのではなく、不面目であると考えたい。

5. 結果の利用

統計調査の結果は、凡べて統計数字にまとめられ、それを各方面で利用するのである。従つて発表される統計はできるだけ各方面に利用できるように配慮されることが肝要である。調査事項に関する整理は非常に進歩しているが、残念に思うのは地域表章について考慮が足りないことである。一つは行政区画の府県の外に、市町村別を今一段追加してほしいことである。そうするならば市町村行政上役立つばかりでなく、調査にも熱が入ると思う。今までの統計では国のための手助けという気分がぬげられないではないか。今一つは行政区画別ばかりでなく、産業地帯別とか、環境別とか、統計から見た地域表章を研究してはどうかということである。これによつて全機関の協力が得られ利用度が高まると思う。





勤労者世帯の

昭和34年の家計は楽だった？

- (1) 実収入が増えた
- (2) 賞与が多かった
- (3) 中・低所得層が伸びた
- (4) 消費をひかえる
- (5) エンゲル係数40%を割る
- (6) 耐久消費財いぜん売れる
- (7) 貯蓄増える

まえがき

総理府統計局で実施している家計調査は、昭和34年12月分の集計を終えて公表されたが、これにより昭和34年1年間のわが国勤労者世帯の家計がどのような特徴を示したかは、前掲の7項目がそれを物語っているが、これを一口にいえば、家計は楽だったということが出来ようか。

昭和33年の日本経済は、前年5月に実施された金融引締政策を契機とした景気後退が中頃まで続き、その後景気はふたたび上昇をはじめたのであるが、昭和34年の日本経済はその景気をひきついで好況を持続し、それが家計のあらゆる面にも反映したといえよう。次に各項目につき述べて見よう。

(1) 実収入の伸び順調

34年の実収入は、33年にひきついで規則正しい季節変動をしめしながら、着実な上昇をつづけ、年平均は36,873円となり、33年にくらべて(+)6.4%の増加率を示した。これは、32年の(+)6.1%、33年の(+)6.1%をやや上回る順調な伸びであった。

なお、34年4月からの減税で、可処分所得は34,122円となり、対前年比では(+)7.2%の上昇率をみせている。

年次別勤労者世帯実収入額

| 年次別 | 世帯 人員数 | 実収入 | | 可処分 所得 | |
|-------|-----------|--------|-----------|-----------|-----------|
| | | 円 | 対前年比 % | 円 | 対前年比 % |
| 昭和26年 | 4.68 | 16,532 | — | 14,917 | — |
| 27年 | 4.77 | 20,822 | 125.9 | 18,991 | 127.3 |
| 28年 | 4.79 | 26,025 | 125.0 | 23,065 | 121.5 |
| 29年 | 4.80 | 28,283 | 108.7 | 24,922 | 108.1 |
| 30年 | 4.71 | 29,169 | 103.1 | 25,896 | 103.9 |
| 31年 | 4.47 | 30,776 | 105.5 | 27,464 | 106.1 |
| 32年 | 4.44 | 32,664 | 106.1 | 29,810 | 108.5 |
| 33年 | 4.46 | 34,663 | 106.1 | 31,824 | 106.8 |
| 34年 | 4.41 | 36,873 | 106.4 | 34,122 | 107.2 |

(2) 賞与が大幅に伸びる

34年の実収入が順調に伸びたことを、実収入の内訳でみた場合、定期収入の伸びよりも、臨時収入、つまり賞与の大幅な増加によつたことが分る。即ち世帯主の定期収入は前年比(+)4.5%の伸びにとどまり、32年の(+)5.4%、33年の(+)5.8%をかなり下回つた。が一方、世帯主の臨時収入は好景気を反映した、夏期、年末賞与の大幅な増加などにより、前年比(+)14.8%の伸びをしめし実収入の伸びにかなり大きく寄与している。これは実収入の伸びがほとんど定期収入の伸びに支えられていた33年といちじるしい対照をしめている。

なお、世帯主に支給された賞与を推定すると、夏期が18,472円、年末が35,129円で、それぞれ定期収入の0.74カ月分、1.26カ月分であつた。これは33年の0.66カ月分と1.16カ月分にくらべかなり大きい。

また、その他の世帯員収入も、33年中頃からの有業人員の増加の傾向を反映して、前年比(+)10.9%の伸びを示した。(次頁表参照)

(3) 中・低所得層が伸びる

5分位階級別(注…5分位階級とは、勤労者世帯を実収入の低いものから高いものへと順にならべて、5等分した場合の5つのグループである。)でみると、実収入の伸びの階級間の差は割合に小さく、いずれも5%以上の増加率を示しているが、なかでも中・低所得層の伸びが大きかつた。32年は比較的高所得層が伸び、33年は中堅層が伸びている。

また、可処分所得の伸びでみると、いずれも7%前後で階級間の差はさらに小さい。これは34年4月からの減税が比較的高所得層をうるおしたためである。

(4) 消費の伸びにぶる

消費支出は年平均で29,375円となり、前年を(+)5.7%上回つたが、可処分所得の伸び(+)7.2%にくらべるとかなり小さく、このため平均消費性向は86.1%となり、

世帯主の夏期賞与、年末賞与および平月の臨時収入

| 年 | 月 | 世帯主収入 | | 対前年同期比 | | 夏期、年末賞与および平月臨時収入 |
|-----|------------------|--------|--------|--------|-------|------------------|
| | | 定 | 期 | 定 | 期 | 定 |
| 30年 | 6. 7 月 (夏期賞与) | 20,775 | 9,711 | 6.6 | 10.8 | カ月分 0.47 |
| | 12 月 (年末賞与) | 23,755 | 20,928 | 9.0 | 16.1 | 0.88 |
| | 平 月 (賞与月以外) | 20,624 | 626 | 5.3 | -40.8 | 0.03 |
| 31年 | 6. 7 月 | 21,412 | 12,005 | 3.1 | 23.6 | 0.56 |
| | 12 月 | 24,090 | 25,237 | 1.4 | 20.6 | 1.05 |
| | 平 月 | 21,473 | 753 | 4.1 | 20.3 | 0.04 |
| 32年 | 6. 7 月 | 22,862 | 14,393 | 6.8 | 19.9 | 0.63 |
| | 12 月 | 25,194 | 29,188 | 4.6 | 15.7 | 1.16 |
| | 平 月 | 22,591 | 868 | 5.2 | 15.3 | 0.04 |
| 33年 | 6. 7 月 | 24,062 | 15,825 | 5.2 | 9.9 | 0.66 |
| | 12 月 | 26,966 | 31,171 | 7.0 | 6.8 | 1.16 |
| | 平 月 | 23,884 | 794 | 5.7 | -8.5 | 0.03 |
| 34年 | 6. 7 月 | 25,117 | 18,472 | 4.3 | 16.7 | 0.74 |
| | 12 月 | 27,871 | 35,129 | 3.3 | 12.6 | 1.26 |
| | 平 月 | 24,985 | 916 | 4.6 | 15.3 | 0.03 |

注 夏期賞与=(6月の臨時-5月の臨時)+(7月の臨時-5月の臨時)

年末賞与=(12月の臨時-11月の臨時)

平月の臨時収入=(1~5月および8~11月の臨時)÷9

33年の87.4%をさらに下回った。しかし、5分位階級別にみると、消費支出の伸びは階級間でかなりの差がありとくに中堅層の伸びは大きく、7%程度になっている。

平均消費性向 (%)

| 27年 | 28年 | 29年 | 30年 | 31年 | 32年 | 33年 | 34年 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 95.6 | 94.2 | 92.6 | 90.8 | 88.2 | 87.5 | 87.4 | 86.1 |

注 平均消費性向=消費支出÷可処分所得

可処分所得とは実収入-非消費支出をいう

(5) エンゲル係数が40%を割る

消費支出のうち、食料費は33年の(+)4.6%よりさらに小さい(+)2.1%の伸びにとどまり、消費の伸びの鈍化の主因をなした。このため、エンゲル係数も33年の41.2%から34年は39.8%に低下し、戦後初めて40%を割った。

食料費の内訳をみると、穀類が33年に比べて減少したが、一方、肉・乳卵類などの動物性食品、酒・飲料などの嗜好食品、外食費は33年を大きく上回った。

年次別エンゲル係数 (%)

| 27年 | 28年 | 29年 | 30年 | 31年 | 32年 | 33年 | 34年 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 48.3 | 45.0 | 45.5 | 44.5 | 42.9 | 41.9 | 41.2 | 39.8 |

(6) 耐久消費財の購入の伸びにつづく

住居費では、耐久消費財をふくむ家具什器の伸びが(+)34.7%で、32年の(+)26.9%、33年の(+)31.8%

にひきついて大きな増加率をしめした。このように耐久消費財を購入する傾向はさらに続くとおもわれる。

光熱費では、電気器具の普及により、電気、ガス代が前年比(+)11.5%と増加し、逆に、薪炭などが(-)6.5%と減少し、全体としては(+)2.9%の増加にとどまっている。

被服費は33年がほとんど伸びなかつた(前年比(+)1.4%)のに対し、34年は賞与月の衣料費の大幅な伸びにより、(+)5.1%とかなりの増加をしめした。

雑費では、教育費、交際費、その他の雑費がいずれも10%以上伸び、また、33年に大きく伸びた教養娯楽費は小さい増加にとどまった。

(7) 貯蓄の伸び順調

収支バランスをみると、消費支出の伸びが可処分所得の伸びにくらべて比較的小さかつたことにより、黒字は4,747円と33年を(+)17.9%も大幅に上回った。その内訳では、貯蓄純増が2,996円となり、33年を(+)15.4%上回り、また貯蓄率が8.8%となり、33年の8.2%をかなり上回った。この貯蓄率は年々上昇し、33年はやや限界に達したかとおもわれたが、34年はふたたび上昇し、今後の動きが注目される。

年次別貯蓄率 (%)

| 27年 | 28年 | 29年 | 30年 | 31年 | 32年 | 33年 | 34年 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 2.2 | 3.2 | 4.1 | 5.6 | 6.8 | 7.9 | 8.2 | 8.6 |

注 貯蓄率=貯蓄純増÷可処分所得

全都市勤労者世帯平均1カ月間の収入と支出

(単位円)

| 項 目 | 昭和33年 平 均 | 昭和34年 平 均 | 対前年比 (%) | 項 目 | 昭和33年 平 均 | 昭和34年 平 均 | 対前年比 (%) |
|-----------------|--------------|--------------|-------------|-----------------|--------------|--------------|-------------|
| 世 帯 数 | 2,616 | 2,601 | — | 乾物・海草類 | 204 | 218 | 6.9 |
| 世 帯 人 員 数 | 4.46 | 4.41 | — | 加 工 食 品 | 919 | 938 | 2.1 |
| 有 業 人 員 数 | 1.48 | 1.50 | — | 調 味 料 | 765 | 778 | 1.7 |
| 収 入 総 額 | 50,060 | 54,075 | 8.0 | 菓 子 類 | 637 | 633 | -0.6 |
| 実 収 入 | 34,663 | 36,873 | 6.4 | 果 物 類 | 459 | 479 | 4.4 |
| 勤 め 先 収 入 | 32,262 | 34,379 | 6.6 | 酒 類 | 427 | 456 | 6.8 |
| 世 帯 主 収 入 | 28,861 | 30,608 | 6.1 | 飲 料 | 239 | 253 | 5.9 |
| 本 業 | 28,798 | 30,558 | 6.1 | 外 食 費 | 737 | 782 | 6.1 |
| 定 期 | 24,170 | 25,247 | 4.5 | 住 居 費 | 2,489 | 2,901 | 16.6 |
| 臨 時 | 4,628 | 5,311 | 14.8 | 家 賃 地 代 | 759 | 777 | 2.4 |
| 副 業 | 63 | 50 | -20.6 | 設 備 修 繕 | 521 | 538 | 3.3 |
| 妻 の 収 入 | 683 | 799 | 17.0 | 水 道 料 | 128 | 130 | 1.6 |
| そ の 他 の 世 帯 員 | 2,718 | 2,972 | 9.3 | 家 具 什 器 | 1,081 | 1,456 | 34.7 |
| 収 入 | 664 | 737 | 11.0 | 光 熱 費 | 1,286 | 1,323 | 2.9 |
| 事 業 ・ 内 職 収 入 | 1,737 | 1,757 | 1.2 | 電 気, ガス代 | 667 | 744 | 11.5 |
| そ の 他 の 実 収 入 | 585 | 584 | -0.2 | そ の 他 の 光 熱 費 | 619 | 579 | -6.5 |
| 財 産 収 入 | 328 | 328 | 0 | 被 服 費 | 3,353 | 3,523 | 5.1 |
| 社 会 保 険 給 付 | 279 | 320 | 14.7 | 衣 料 費 | 2,341 | 2,452 | 4.7 |
| 受 贈 | 188 | 167 | -11.2 | 身 の ま わ り 品 | 1,012 | 1,071 | 5.8 |
| 仕 送 り 金 | 357 | 358 | 0.3 | そ の 他 | 9,227 | 9,942 | 7.7 |
| そ の 他 | 5,448 | 6,269 | 15.1 | 雑 費 | 610 | 633 | 3.8 |
| 実 収 入 以 外 の 収 入 | 2,789 | 3,355 | 20.3 | 保 健 医 療 費 | 867 | 903 | 4.2 |
| 貯 金 引 出 | 139 | 149 | 7.2 | 理 容 衛 生 費 | 602 | 623 | 3.5 |
| 保 険 取 金 | 501 | 429 | -14.4 | 交 通 通 信 費 | 748 | 844 | 12.8 |
| 借 入 金 | 1,769 | 2,027 | 14.6 | 教 育 費 | 117 | 121 | 3.4 |
| 掛 買 | 250 | 309 | 23.6 | 文 房 具 費 | 1,731 | 1,766 | 2.0 |
| そ の 他 | 9,943 | 10,933 | 10.0 | 教 養 娯 楽 費 | 1,298 | 1,462 | 12.6 |
| 前 月 か ら の 繰 入 金 | 6 | 0 | — | 交 際 費 | 325 | 312 | -4.0 |
| 記 入 不 備 | 1,368 | 1,407 | — | た ば こ | 69 | 75 | 8.7 |
| 現 物 総 額 | 116 | 136 | — | 仕 送 り 金 | 318 | 279 | -12.3 |
| (勤 め 先 収 入) | 4,025 | 4,747 | 17.9 | 損 害 保 険 料 | 2,542 | 2,924 | 15.0 |
| 黒 字 | 50,060 | 54,075 | 8.0 | 負 担 費 そ の 他 | 2,839 | 2,751 | -3.1 |
| 支 出 総 額 | 30,638 | 32,126 | 4.9 | 非 消 費 支 出 | 1,184 | 1,122 | -5.2 |
| 実 支 出 | 27,799 | 29,375 | 5.7 | 勤 労 所 得 税 | 623 | 592 | -5.0 |
| 消 費 支 出 | 11,444 | 11,686 | 2.1 | そ の 他 の 税 | 927 | 969 | 4.5 |
| 食 料 費 | 3,739 | 3,652 | -2.3 | 社 会 保 障 費 | 105 | 68 | -35.2 |
| 穀 類 | 3,090 | 3,039 | -1.7 | そ の 他 の 非 消 費 | 8,968 | 10,314 | 15.0 |
| 米 類 | 143 | 104 | -27.3 | 支 出 | 4,243 | 5,061 | 19.3 |
| 麦 ・ 雑 穀 類 | 279 | 283 | 1.4 | 実 支 出 以 外 の 支 出 | 1,282 | 1,439 | 12.2 |
| パ ン 類 | 227 | 226 | -0.4 | 貯 金 | 800 | 826 | 3.3 |
| そ の 他 | 7,705 | 8,034 | 4.3 | 借 金 返 済 | 2,182 | 2,337 | 7.1 |
| そ の 他 の 食 料 費 | 737 | 752 | 2.0 | 掛 買 払 | 461 | 651 | 41.2 |
| 生 鮮 魚 介 類 | 327 | 331 | 1.2 | そ の 他 | 10,448 | 11,635 | 11.4 |
| 塩 干 魚 介 類 | 684 | 747 | 9.2 | 翌 月 へ の 繰 越 金 | 6 | 0 | — |
| 肉 類 | 759 | 812 | 7.0 | 記 入 不 備 | 1,368 | 1,407 | — |
| 乳 卵 類 | 811 | 855 | 5.4 | 現 物 総 額 | 904 | 896 | — |
| 野 菜 類 | | | | (食 料 費) | | | |

親孝行西へ行く

東京教育大学教授

美濃部亮吉

親孝行は日本の専売特許かと思っていたら、今や欧州へ行つてしまつたということである。

これは、2、3週間ほど前の週刊文春の記事の結論であつた。週刊文春のこういう結論は、九州大学の牛島義友教授の調査によつたものであつた。

牛島教授は、ヨーロッパに行かれた時、ドイツ、イギリス、フランスの子供達に、「お父さんやお母さんを助けるためなら、自分はどうなつてもかまいませんか」という質問に対する答弁を求められたそうである。そして、ドイツでは92%が、イギリス及びフランスでは98%がイエスと答えたそうである。

その後日本に帰り、神戸市及び日本全国の子供達について、同じ質問に対する答えを集められた。その結果はイエスと答えた子供が、神戸では30%、日本全国では56%であつた。

ヨーロッパの先進国では、小学生の90%以上が、親のためなら自分はどうなつてもよいと答え、日本では半分乃至半分以上の子供が、親の犠牲になるのはまっぴら御免だと答えたとすれば、日本の専売特許である親孝行は今や西の方をはるかなヨーロッパの国々へ移住して行つたと考えるのも無理からぬ次第であるかも知れない。

◇ ◇

しかし、そう気早やに結論を下すわけにはいかないようである。

そもそも、統計調査の基礎原則の一つは、調査しようと思ふ事項について質問する場合には、その質問の定義をはつきりときめ、誰れもがその質問の意味を同じように解釈するようにし、従つて、質問に対する答えも同質になるようにしなければならない。

例えば、ただ結婚してから何年たちますかとときただけでは、法律上結婚が成立してから何年たつたかとときているのか、そうではなく事実上の結婚をしてから何年たつたかとときているのかわからない。或る人は、法律上の結婚と解釈し、他の人は事実上の結婚と考え、それぞれの解釈に基づいて答えたら、その答えの意味はちりちりばらばらとなり、十年なら十年たつた人達の数を出しても、その統計は何等の意味も持つていないという

ことになるだろう。いわんや、そういう統計を基礎として何等かの結論を引出したら、大まちがいを犯したことになる。

◇ ◇

上に書いた「お父さんやお母さんを助けるためなら、自分はどうなつてもかまいませんか」という質問はどうだろう。こういう質問に対する答えに基づいて何等かの統計を作ろうというのだつたら、落第も落第、大落第である。

第一「親を助けるため」という言葉の意は甚だ明確をかきいろいろ解釈される。「親の命を救う」のも親を助けるためだし、「家の掃除を手伝う」のも親を助けるためである。どういう状況にある親を助けるのか、それははつきりしなければ、答えようにも答えようがない。無理に答えたとしたら、その答えの内容は、一人一人みんなちがつていると考えなければならないだろう。

「自分はどうなつてもかまいませんか」という質問に至つては、まさに言語同断である。生命を犠牲にするのも、身売りをするのも、欲しいものを買わないで我慢するのも、明日の予習をやめてお掃除するのも、考えようによつては、みんな、「自分はどうなつてもかまわない」という行動に属している。

こういう質問にイエスと答えたからといって、イエスの意味は千種万別であるはずである。自分の生命をぎせいにするのがどうなつてもかまわないことの内容だと考えて答えたイエスと、予習をやめてお掃除を手伝うくらいの意味でイエスと答えたのでは、同じイエスでも、大へんなちがひがある。

内容に千種万様であるイエスやノーをたし合せて、パーセンテージを取つたつて、何等の意味もない。だから牛島教授の調査からは、何等の結論も引き出せない。

◇ ◇

元来、親孝行という思想は大きらいである。親が子供を育てたからといって、子供に孝行の義務を課するなどという考え方は、もつとも反動的、封建的だといつてよい。親と子の間に特種の愛情が存在することは明白である。そういう愛情がある場合に、親が子をいたわり、子が親を助けるのは当然である。しかし、それは愛情があつてこそその問題である。愛情から離れた親孝行があつたらやりきれたものではない。

だから、親孝行が西へ行つてしまつてもちつともかまわない。しかし、変な統計をもとにして、親孝行は西へ行つたと結論し、だから、道徳教育が必要だなどと主張さたては甚だ困る。

百貨店

百貨店法による百貨店は、昨年末現在、全国で109企業あり、支店分店出張店等を含めて309店となっている。茨城県で百貨店法による百貨店を営んでいるのは、水戸の志満津1店だけである。

百貨店法による「百貨店業」の定義は、物品販売業であつて、これを営むための店舗のうちに、同一の店舗で床面積の合計が1,500平方米(地方の場合)以上あるものとなつている。

東京にある百貨店法による百貨店をちよつとあげてみると次のとおり。

大丸、十合、白木屋、高島屋、松屋、松坂屋、三越、阪急、伊勢丹、丸物、東横、西武

昭和34年における全国百貨店の販売額は3,884億5千万円で、このうち、6大都市における百貨店の販売額は、71.0%を占めている。

百貨店の商品券は、よく中元、歳暮に使われるが34年年間販売額は63億2千万円で、年末の20億6千万円を最高とし、7月、8月、3月、4月の順に売れた。

金属洋食器

わが国の金属洋食器工業は、新潟、岐阜、茨城の三県に分布している。工場数は新潟県が76、岐阜が21、茨城には笠間市の柴田金属工業株式会社がただ一つあるだけ。この柴田金属は創業が明治時代で、同時代に創業したのは、新潟にも岐阜にもそれぞれ1軒しかない。

昭和2年ステンレス鋼の進出により、この産業も次第に発展し、オランダ、スイス、東南アジア方面に年々輸出は増大したが、太平洋戦争によりほとんど中絶状態になつた。しかし終戦とともに駐留軍需要のため洋食器製造が復活され、さらに昭和24年ごろには米国市場の開拓が進み、全生産の70%を米国市場に依存する態勢となつた。昭和31年の輸出は918万ダース、32年1,446万ダース、33年1,386万ダースとなつている。

製品の素地別内訳は、スプーン、フォーク、ナイフとも90~94%とほとんどがステンレス製で、鉄材、洋白、黄銅はほんのわずかつつである。

縦

横

軸

軸

大学を出るまでに教育費はいくらかかる。

単位千円

| | |
|---------------|-----|
| 大学(自宅通学)(4年) | 201 |
| 高等学校(全日制)(3年) | 97 |
| 中学校(3年) | 36 |
| 小学校(6年) | 71 |
| 計.....16年間に | 405 |

(注) 官立大学でも下宿の場合には教育費は36万5千円かかる。

資料 「貯蓄時報」

茨城県における放射能調査が県の衛生研究所で行われている。昭和34年4月1日から、35年3月10日までの調査の結果によると、農作物では、ほうれん草、大根、茶等に高い測定値がみられ、穀類は、玄穀が精白したものにくらべて高い値を示した。

動物の中では、あゆやふなの内臓、あみ、しじみ等が高く、獣骨は中央部にくらべて骨端部に高い傾向を示した。

しじみの放射能は、時期的変動が顕著で、年間を通じて4月前後に高い値を示したが、漸次減少した。核実験は、昨年10月末に停止されたにもかかわらず、それ以降になつてしじみの放射能が増加したことは興味深い。

土壌では、庭の表土が田畑のそれにくらべて高い。天水及び天水沈殿物は4、5月頃に高い放射能を検出したが8月以降は急激に減少した。

教育費

放射能



図表

図で見る

県民所得と農林水産業の関係

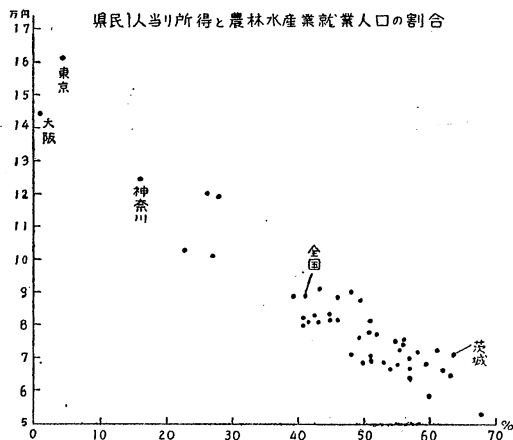
一般に農業県は所得水準が低いといわれているが、はたしてそのようなことがいえるかどうかを、県民所得と就業人口中にしめる農林水産業就業者の割合という一面から、下記の相関図を画いてこれを眺めてみた。

たしかにこの図からは、東京都、大阪府、神奈川県等農林水産業就業人口が20%以下のところでは、県民1人当り所得も161,562円、144,873円、124,400円とそれぞれ高額を示しているのに対し、ほとんどの県は農林水産業就業人口が40%~60%で、県民1人当り所得も6万円~9万円の間分布している。

この分布を全体的に眺めてみると、一種の規則性でもあるかのように、農林水産業就業人口の割合が増えるにつれ、県民1人当りの所得が低下している。従つてこの両者すなわち、農林水産業に就業する人口と、県民1人当りの所得の間には、相関関係があるといえよう。

全国の農林水産業就業人口の割合は41%、全国平均県民1人当りの所得は89,767円に対して、本県は農林水産業就業人口の割合63.9%、県民1人当りの所得は71,699円であり平均を下回っている。農林水産業就業人口の割合60%以上の青森、岩手、秋田、鹿児島の中では県民1人当りの所得は秋田県の72,533円に次いで2番目となっている。

なおこの図を画くのに用いた資料は、昭和32年に各都道府県で推計した県民1人当りの所得を縦軸にとり、昭和30年国勢調査結果から各都道府県の就業人口のうち第一次産業（農林水産業）に就業している人口の割合を横軸にとつた。用いた資料に時間的なひらきがあり、また新鮮味がなく多少疑問があるのであるが、この場合この図から大ざつばな傾向を見ることが出来ればよいのではないかと思う。



| 都道府県別 | 就業総人口 | 農林水産業口 | 農林水産業 就業者の割合 | 昭和32年 県民1人当り所得 |
|-------|--------|--------|-----------------|-------------------|
| | 千人 | 千人 | % | 円 |
| 全 国 | 39,261 | 16,111 | 41.0 | 89,767 |
| 北海道 | 1,974 | 848 | 42.9 | 91,768 |
| 青森県 | 619 | 384 | 62.0 | 66,119 |
| 岩手県 | 666 | 422 | 63.3 | 64,811 |
| 宮城県 | 724 | 388 | 53.5 | 69,860 |
| 秋田県 | 607 | 372 | 61.2 | 72,533 |
| 山形県 | 632 | 368 | 58.2 | 72,363 |
| 福島県 | 923 | 531 | 57.5 | 67,277 |
| 茨城県 | 967 | 618 | 63.9 | 71,699 |
| 栃木県 | 698 | 367 | 52.5 | 77,870 |
| 群馬県 | 735 | 376 | 51.5 | 69,963 |
| 埼玉県 | 1,006 | 458 | 45.5 | 83,203 |
| 千葉県 | 1,002 | 562 | 56.0 | 74,900 |
| 東京都 | 3,346 | 132 | 3.9 | 161,562 |
| 神奈川県 | 1,145 | 183 | 15.9 | 124,400 |
| 新潟県 | 1,160 | 646 | 55.6 | 75,176 |
| 富山県 | 483 | 224 | 46.3 | 89,680 |
| 石川県 | 463 | 208 | 44.9 | 82,000 |
| 福井県 | 374 | 174 | 46.5 | 80,946 |
| 山梨県 | 367 | 189 | 51.4 | 69,141 |
| 長野県 | 1,008 | 575 | 57.0 | 75,565 |
| 岐阜県 | 743 | 325 | 43.7 | 80,093 |
| 静岡県 | 1,162 | 451 | 38.8 | 89,122 |
| 愛知県 | 1,737 | 460 | 26.4 | 120,379 |
| 三重県 | 685 | 331 | 48.3 | 89,769 |
| 滋賀県 | 411 | 210 | 51.0 | 81,534 |
| 京都市 | 823 | 189 | 22.9 | 103,191 |
| 大阪府 | 1,892 | 152 | 0.8 | 144,873 |
| 兵庫県 | 1,528 | 431 | 28.2 | 119,182 |
| 奈良県 | 327 | 136 | 41.5 | 81,059 |
| 和歌山県 | 438 | 180 | 41.0 | 80,822 |
| 鳥取県 | 292 | 167 | 57.1 | 69,214 |
| 島根県 | 447 | 266 | 59.5 | 68,734 |
| 岡山県 | 795 | 404 | 50.8 | 78,335 |
| 広島県 | 969 | 396 | 40.8 | 82,201 |
| 山口県 | 703 | 299 | 42.5 | 83,054 |
| 徳島県 | 391 | 211 | 53.9 | 67,343 |
| 香川県 | 442 | 218 | 49.3 | 87,907 |
| 愛媛県 | 660 | 329 | 49.8 | 76,662 |
| 高知県 | 420 | 247 | 58.8 | 73,384 |
| 福岡県 | 1,501 | 404 | 26.9 | 101,373 |
| 佐賀県 | 410 | 205 | 50.0 | 69,867 |
| 長門県 | 702 | 337 | 48.0 | 70,947 |
| 熊本県 | 820 | 457 | 55.7 | 68,279 |
| 大宮県 | 574 | 324 | 56.4 | 75,056 |
| 分岐県 | 514 | 304 | 59.1 | 58,080 |
| 鹿島 | 968 | 657 | 67.8 | 53,702 |

就業人口を各都道府県別に合計したものが全国に合わないのは千位未満を四捨五入したため

毎月人口世帯異動調査結果

(昭和35年3月分)

1. 世帯異動状況

| | 前月末 | 増 加 | | | | 減 少 | | | | 本月末 |
|---------|---------|-------|------|-------|-------|-------|-------|------|-------|---------|
| | | 転 入 | | その他 | 計 | 転 出 | | その他 | 計 | |
| | | 県外から | 県内から | | | 県外へ | 県内へ | | | |
| 世 帯 数 | 394,285 | 465 | 545 | 69 | 1,079 | 551 | 465 | 36 | 1,052 | 394,312 |
| 前月との増減比 | — | 141.3 | 95.1 | 106.2 | 111.6 | 206.4 | 126.0 | 90.0 | 155.6 | 100.0 |

前月=100

2. 人口異動状況

| | 前月末 | 増 加 | | | | 減 少 | | | | 本月末 | | |
|---------|-----------|-------|-------|-------|------|--------|-------|--------|-------|-------|--------|-----------|
| | | 出 生 | 転 入 | | その他 | 計 | 死 亡 | 転 出 | | | その他 | 計 |
| | | | 県外から | 県内から | | | | 県外へ | 県内へ | | | |
| 計 | 2,080,481 | 3,295 | 4,297 | 4,658 | 160 | 12,410 | 1,768 | 10,191 | 6,206 | 121 | 18,286 | 2,074,605 |
| 男 | 1,013,137 | 1,678 | 2,596 | 2,268 | 114 | 6,656 | 879 | 5,702 | 3,120 | 90 | 9,791 | 1,010,002 |
| 女 | 1,067,344 | 1,617 | 1,701 | 2,390 | 46 | 5,754 | 889 | 4,489 | 3,086 | 31 | 8,495 | 1,064,603 |
| 前月との増減比 | — | 97.2 | 135.6 | 111.8 | 93.0 | 113.9 | 102.6 | 229.1 | 146.6 | 102.5 | 82.6 | 99.7 |

前月=100

3. 県外からの転入者内訳

| 従前の居住地 | 転入者数 | 割合 |
|---------|-------|--------|
| 合 計 | 4,267 | 100.0% |
| 東 京 都 | 1,599 | 37.5 |
| 埼 玉 県 | 122 | 2.8 |
| 神 奈 川 県 | 205 | 4.8 |
| 千 葉 県 | 270 | 6.3 |
| 栃 木 県 | 203 | 4.8 |
| 群 馬 県 | 56 | 1.3 |
| 福 島 県 | 623 | 14.6 |
| その他の府県 | 1,189 | 27.9 |

4. 県外転出者内訳

| 転出先の居住地 | 転出者数 | 割合 |
|---------|--------|--------|
| 合 計 | 10,083 | 100.0% |
| 東 京 都 | 5,864 | 58.1 |
| 埼 玉 県 | 557 | 5.5 |
| 神 奈 川 県 | 944 | 9.4 |
| 千 葉 県 | 523 | 5.2 |
| 栃 木 県 | 243 | 2.4 |
| 群 馬 県 | 70 | 0.7 |
| 福 島 県 | 400 | 4.0 |
| その他の府県 | 1,482 | 14.7 |

5. 市町村別世帯数および人口(月末現在)

| 市町村名 | 世帯数 | 人 口 | | | 市町村名 | 世帯数 | 人 口 | | |
|------|---------|---------|---------|---------|-------|--------|--------|--------|--------|
| | | 計 | 男 | 女 | | | 計 | 男 | 女 |
| 市 計 | 178,498 | 874,072 | 427,504 | 446,568 | 竜ヶ崎市 | 6,728 | 34,159 | 16,502 | 17,657 |
| 水戸市 | 29,322 | 134,737 | 64,951 | 69,786 | 那珂湊市 | 6,930 | 34,029 | 15,990 | 18,039 |
| 日立市 | 31,812 | 151,744 | 77,302 | 74,442 | 下妻市 | 5,577 | 31,195 | 14,940 | 16,255 |
| 土浦市 | 16,159 | 72,324 | 35,017 | 37,307 | 水海道市 | 7,313 | 38,727 | 18,586 | 20,141 |
| 古河市 | 9,178 | 41,871 | 19,904 | 21,967 | 常陸太田市 | 7,714 | 38,680 | 18,793 | 19,877 |
| 石岡市 | 7,322 | 36,638 | 17,509 | 19,129 | 勝田市 | 7,907 | 39,196 | 19,487 | 19,709 |
| 下館市 | 9,678 | 52,210 | 25,290 | 26,920 | 高萩市 | 7,055 | 33,293 | 16,599 | 16,694 |
| 結城市 | 6,994 | 38,903 | 18,705 | 20,198 | 北茨城市 | 12,494 | 63,270 | 32,052 | 31,218 |
| | | | | | 笠間市 | 6,315 | 33,096 | 15,877 | 17,219 |

| 市町村名 | 世帯数 | 人 | | | 市町村名 | 世帯数 | 人 | | |
|-------------|---------|-----------|---------|---------|--------------|--------|---------|--------|--------|
| | | 計 | 男 | 女 | | | 計 | 男 | 女 |
| 郡 計 | 215,811 | 1,200,533 | 582,498 | 618,035 | 稲 敷 郡 | 21,087 | 113,975 | 55,248 | 58,727 |
| 東茨城郡 | 25,711 | 137,908 | 66,771 | 71,137 | 江戸崎町 | 2,541 | 13,306 | 6,359 | 6,947 |
| 常澄村 | 1,734 | 10,290 | 5,046 | 5,244 | 美浦村 | 1,709 | 9,472 | 4,549 | 4,923 |
| 茨城町 | 5,513 | 31,296 | 15,300 | 15,996 | 阿見町 | 4,310 | 21,732 | 10,738 | 10,994 |
| 小川町 | 2,942 | 16,321 | 7,862 | 8,459 | 牛久崎村 | 3,088 | 16,146 | 7,956 | 8,190 |
| 美野里町 | 2,688 | 14,987 | 7,322 | 7,665 | 新利根村 | 1,084 | 6,475 | 3,212 | 3,263 |
| 内北村 | 2,272 | 13,197 | 6,622 | 6,575 | 河内川村 | 1,814 | 9,793 | 4,706 | 5,087 |
| 常北村 | 2,372 | 12,323 | 5,958 | 6,365 | 東河村 | 2,373 | 13,661 | 6,627 | 7,034 |
| 桂山村 | 1,847 | 9,414 | 4,536 | 4,878 | 新治郡 | 15,727 | 86,920 | 42,559 | 44,361 |
| 御前町 | 1,454 | 7,671 | 3,642 | 4,029 | 出島村 | 3,500 | 19,060 | 9,372 | 9,688 |
| 大洗町 | 4,889 | 22,409 | 10,483 | 11,926 | 玉里郷 | 972 | 5,284 | 2,607 | 2,677 |
| 西茨城郡 | 11,073 | 61,799 | 30,043 | 31,756 | 八千代田村 | 5,708 | 32,407 | 15,779 | 16,628 |
| 友部町 | 3,492 | 19,355 | 9,549 | 9,806 | 千代田村 | 2,092 | 11,964 | 5,874 | 6,090 |
| 岩間会 | 2,479 | 14,329 | 6,910 | 7,419 | 新桜村 | 1,633 | 8,876 | 4,376 | 4,500 |
| 七岩瀬町 | 731 | 4,197 | 2,039 | 2,158 | 筑波郡 | 17,163 | 93,812 | 45,666 | 48,146 |
| 那珂郡 | 19,958 | 107,684 | 52,856 | 54,828 | 谷田部町 | 3,974 | 21,363 | 10,556 | 10,807 |
| 東海村 | 2,180 | 13,007 | 6,626 | 6,381 | 伊奈村 | 2,120 | 12,283 | 5,939 | 6,344 |
| 那珂連町 | 5,880 | 31,194 | 15,338 | 15,856 | 谷和原村 | 1,996 | 11,200 | 5,366 | 5,834 |
| 瓜方町 | 1,413 | 7,137 | 3,469 | 3,668 | 里波町 | 2,155 | 11,769 | 5,814 | 5,955 |
| 大山宮村 | 4,856 | 25,445 | 12,361 | 13,084 | 筑波町 | 4,724 | 25,193 | 12,161 | 13,032 |
| 美緒川村 | 2,548 | 13,639 | 6,634 | 7,005 | 大穂村 | 2,194 | 12,004 | 5,830 | 6,174 |
| 久慈郡 | 14,266 | 77,401 | 37,432 | 39,969 | 真壁郡 | 13,804 | 79,650 | 38,500 | 41,150 |
| 金砂郷村 | 2,774 | 15,370 | 7,384 | 7,986 | 関城町 | 2,625 | 15,412 | 7,493 | 7,919 |
| 水里村 | 2,299 | 12,068 | 5,828 | 6,240 | 明野町 | 3,068 | 18,113 | 8,778 | 9,335 |
| 大府子町 | 1,442 | 8,068 | 3,878 | 4,190 | 真壁村 | 4,177 | 22,773 | 10,850 | 11,923 |
| 多賀郡 | 7,751 | 41,895 | 20,342 | 21,553 | 大協和村 | 1,411 | 8,456 | 4,084 | 4,372 |
| 十王町 | 2,339 | 11,313 | 5,572 | 5,741 | 結城郡 | 2,523 | 14,896 | 7,295 | 7,601 |
| 鹿島郡 | 20,933 | 121,182 | 58,534 | 62,648 | 八千代村 | 9,363 | 54,851 | 26,598 | 28,253 |
| 旭田村 | 1,980 | 11,980 | 5,807 | 6,173 | 千代川村 | 4,238 | 25,698 | 12,519 | 13,179 |
| 大田村 | 5,285 | 29,290 | 14,183 | 15,107 | 石下町 | 1,600 | 8,879 | 4,308 | 4,571 |
| 大野村 | 1,868 | 10,935 | 5,266 | 5,669 | 猿島郡 | 3,525 | 20,274 | 9,771 | 10,503 |
| 大鹿村 | 1,804 | 11,063 | 5,343 | 5,720 | 総和村 | 20,566 | 124,214 | 60,080 | 64,134 |
| 神栖村 | 2,796 | 16,208 | 7,761 | 8,447 | 三霞村 | 3,344 | 20,375 | 9,900 | 10,475 |
| 波崎町 | 2,866 | 16,727 | 8,009 | 8,718 | 五三村 | 1,499 | 9,614 | 4,712 | 4,902 |
| 行方郡 | 4,334 | 24,979 | 12,165 | 12,814 | 猿島村 | 3,266 | 20,471 | 9,853 | 10,618 |
| 麻生町 | 3,614 | 20,896 | 10,133 | 10,763 | 大井町 | 2,509 | 15,607 | 7,553 | 8,054 |
| 牛堀町 | 1,221 | 7,044 | 3,410 | 3,634 | 神境町 | 2,509 | 15,607 | 7,553 | 8,054 |
| 潮来町 | 3,162 | 17,661 | 8,352 | 9,309 | 北相馬郡 | 5,893 | 34,700 | 16,891 | 17,809 |
| 北玉造町 | 2,176 | 12,809 | 6,144 | 6,665 | 守谷町 | 4,055 | 23,447 | 11,171 | 12,276 |
| | 2,836 | 15,406 | 7,470 | 7,936 | 取手町 | 10,812 | 56,008 | 27,130 | 28,878 |
| | | | | | 藤利根町 | 2,152 | 11,716 | 5,691 | 6,025 |
| | | | | | | 4,581 | 22,072 | 10,751 | 11,321 |
| | | | | | | 2,326 | 12,697 | 6,090 | 6,607 |
| | | | | | | 1,753 | 9,523 | 4,598 | 4,925 |

毎月勤労統計調査結果速報

(昭和 35 年 2 月 分)

労働省大臣官房労働統計調査部

茨 城 県

— 結 果 の 概 況 —

1. 平均賃金の動向

本月の常用労働者の 1 人当りの現金給与総額は男子 19,251 円女子 8,452 円で前月に比較すると男子 1,176 円、女子 83 円の減少であるが、これは「特別に支払われる」給与額の減少によるもので「きまつて支給する給与」については前月と大差ない。

また臨時および日雇労働者においては平均 366 円で 24 円の僅かの増加を示しているが、これは建設業、食料品業の生産量の増加によるものである。

2. 常用労働者の労働時間および出勤日数の推移

本月の実労働時間は 207.0 時間で（男子 210.1 時間、女子 193.7 時間）1 月分に比べ 15.5 時間の増加を示しているが、これは生産量の増加に伴う操業日数の増加によるもので、出勤日数も平均 1.8 日の増加を示している。

3. 雇用の動向

本月末労働者数は 87,160 人で 1,054 人の増加については各産業事業所とも生産向上の主因を示すものである。

第1表 産業常用労働者の種類及び性別1人平均月間現金給与額並びに産業別臨時及び日雇労働者の1人1日平均現金給与額 (規模30人以上) (単位円)

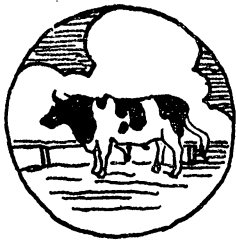
| 産 業 別 | 現金給与総額 | | | きまつて支給する給与 | | | 特別に支払われた給 | | | 臨時及び日雇労働者の1人平均現金給与額 |
|------------------------------|--------|--------|--------|------------|--------|--------|-----------|-------|-----|---------------------|
| | 総数 | 男子 | 女子 | 総額 | 男子 | 女子 | 総額 | 男子 | 女子 | |
| 全 常 用 勞 働 者 | | | | | | | | | | |
| 総 数 | 17,248 | 19,251 | 8,452 | 17,190 | 19,194 | 8,393 | 58 | 57 | 60 | 366 |
| D 鉱 業 | 18,121 | 18,953 | 7,398 | 18,102 | 18,933 | 7,397 | 19 | 20 | 1 | 444 |
| E 建 設 業 | 14,533 | 15,487 | 8,304 | 14,501 | 15,453 | 8,287 | 32 | 34 | 17 | 372 |
| F 製 造 業 | 16,719 | 18,960 | 8,154 | 16,677 | 18,928 | 8,076 | 42 | 32 | 78 | 319 |
| 18 食 料 品 | 12,955 | 16,996 | 5,781 | 12,955 | 16,996 | 5,781 | — | — | — | 384 |
| 20 織 維 工 業 | 8,841 | 16,758 | 6,783 | 8,841 | 16,758 | 6,783 | — | — | — | 292 |
| 21 衣 服 其 他 織 維 製 品 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 22 木 材 木 製 品 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 26 化 学 工 業 | 16,028 | 19,932 | 8,048 | 15,794 | 19,621 | 7,972 | 234 | 311 | 76 | 308 |
| 30 窯 業 土 石 製 品 | 17,635 | 19,228 | 8,382 | 17,628 | 19,221 | 8,382 | 7 | 7 | — | 388 |
| 32 非 鉄 金 属 品 | 18,156 | 19,434 | 9,130 | 18,156 | 19,431 | 9,130 | — | — | — | — |
| 33 金 属 製 品 | 14,227 | 15,787 | 7,574 | 14,227 | 15,787 | 7,574 | — | — | — | 144 |
| 34 機 械 製 造 業 | 13,681 | 15,094 | 6,716 | 13,681 | 15,094 | 6,716 | — | — | — | — |
| 35 電 気 機 器 具 製 造 業 | 17,862 | 19,942 | 8,331 | 17,861 | 19,941 | 8,331 | 1 | 1 | — | 233 |
| 19.38.39 そ の 他 | 16,241 | 19,716 | 12,138 | 15,413 | 18,875 | 11,325 | 828 | 841 | 813 | 249 |
| G 卸 売 及 び 小 売 業 | 14,539 | 17,557 | 7,086 | 14,059 | 16,900 | 7,042 | 480 | 657 | 44 | 231 |
| H 金 融 保 險 業 | 18,694 | 23,526 | 11,143 | 18,659 | 23,479 | 11,126 | 35 | 47 | 17 | — |
| J 運 輸 通 信 業 | 19,712 | 21,197 | 10,285 | 19,699 | 21,186 | 10,262 | 13 | 11 | 23 | 309 |
| K 電 気 ガ ス 水 道 業 | 26,990 | 27,786 | 17,571 | 26,990 | 27,786 | 17,571 | — | — | — | 373 |
| L 医 療 保 健 業 | 19,149 | 27,815 | 13,525 | 19,149 | 27,815 | 13,525 | — | — | — | 225 |
| 生 産 勞 働 者 | | | | | | | | | | |
| D 鉱 業 | 18,056 | 18,649 | 6,907 | 18,049 | 18,648 | 6,907 | 1 | 1 | — | — |
| E 建 設 業 | 12,622 | 13,554 | 7,480 | 12,622 | 13,554 | 7,480 | — | — | — | — |
| F 製 造 業 | 14,097 | 15,851 | 7,723 | 14,060 | 15,826 | 7,633 | 37 | 22 | 90 | — |
| 18 食 料 品 | 11,407 | 15,126 | 5,453 | 11,407 | 15,126 | 5,453 | — | — | — | — |
| 20 織 維 工 業 | 7,271 | 12,028 | 6,631 | 7,271 | 12,028 | 6,631 | — | — | — | — |
| 21 衣 服 其 他 織 維 製 品 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 22 木 材 木 製 品 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 26 化 学 工 業 | 13,372 | 16,890 | 7,477 | 13,106 | 16,497 | 7,425 | 266 | 393 | 52 | — |
| 30 窯 業 土 石 製 品 | 11,901 | 18,364 | 7,961 | 16,894 | 18,297 | 7,961 | 7 | 7 | — | — |
| 32 非 鉄 金 属 品 | 15,635 | 16,521 | 8,191 | 15,635 | 16,521 | 8,191 | — | — | — | — |
| 33 金 属 製 品 | 13,718 | 14,992 | 7,486 | 13,718 | 14,992 | 7,486 | — | — | — | — |
| 34 機 械 製 造 業 | 12,491 | 13,522 | 6,348 | 12,491 | 13,522 | 6,348 | — | — | — | — |
| 35 電 気 機 器 具 製 造 業 | 14,672 | 16,224 | 7,801 | 14,672 | 16,224 | 7,801 | — | — | — | — |
| 19.38.39 そ の 他 | 13,857 | 15,873 | 11,982 | 13,198 | 15,391 | 11,160 | 659 | 482 | 822 | — |
| 管 理 事 務 及 び 技 術 勞 働 者 | | | | | | | | | | |
| D 鉱 業 | 18,554 | 21,181 | 8,160 | 18,427 | 21,022 | 8,159 | 127 | 159 | 1 | — |
| E 建 設 業 | 18,460 | 19,178 | 11,187 | 18,428 | 19,144 | 11,170 | 32 | 34 | 17 | — |
| F 製 造 業 | 23,613 | 26,827 | 9,476 | 23,559 | 26,770 | 9,434 | 54 | 57 | 42 | — |
| 18 食 料 品 | 19,399 | 23,462 | 7,803 | 19,399 | 23,462 | 7,803 | — | — | — | — |
| 20 織 維 工 業 | 16,072 | 20,991 | 8,359 | 16,072 | 20,991 | 8,359 | — | — | — | — |
| 21 衣 服 其 他 織 維 製 品 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 22 木 材 木 製 品 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 26 化 学 工 業 | 22,610 | 25,960 | 10,504 | 22,456 | 25,812 | 10,326 | 154 | 148 | 178 | — |
| 30 窯 業 土 石 製 品 | 20,574 | 23,178 | 9,576 | 20,565 | 23,169 | 9,576 | 9 | 9 | — | — |
| 32 非 鉄 金 属 品 | 23,902 | 26,524 | 10,521 | 23,903 | 26,524 | 10,521 | — | — | — | — |
| 33 金 属 製 品 | 18,851 | 25,349 | 7,936 | 18,851 | 25,349 | 7,936 | — | — | — | — |
| 34 機 械 製 造 業 | 17,988 | 21,664 | 7,455 | 17,988 | 21,664 | 7,455 | — | — | — | — |
| 35 電 気 機 器 具 製 造 業 | 24,589 | 27,635 | 9,554 | 24,587 | 27,633 | 9,554 | 2 | 2 | — | — |
| 19.38.39 そ の 他 | 24,069 | 27,943 | 13,147 | 22,685 | 26,334 | 12,397 | 1,384 | 1,609 | 750 | — |

第2表 産業常用労働者の種類別及び性別1人平均月間実労働時間数及び出勤日数
(規模30人以上) (単位時間、日)

| 産 業 名 | 総実労働時間数 | | | 所定内労働時間数 | | | 所定外労働時間数 | | | 出 勤 日 数 | | |
|------------------------------|---------|-------|-------|----------|-------|-------|----------|------|------|---------|------|------|
| | 総数 | 男子 | 女子 | 総数 | 男子 | 女子 | 総数 | 男子 | 女子 | 総数 | 男子 | 女子 |
| 全 常 用 労 働 者 | | | | | | | | | | | | |
| 総 数 | 207.0 | 210.1 | 193.7 | 181.7 | 181.4 | 183.0 | 25.3 | 28.7 | 10.7 | 24.2 | 24.2 | 24.2 |
| D 鉱 業 | 190.3 | 191.3 | 178.1 | 168.8 | 169.0 | 167.0 | 21.5 | 22.3 | 11.1 | 23.0 | 23.0 | 23.3 |
| E 建 設 業 | 197.5 | 199.8 | 182.0 | 181.1 | 182.5 | 171.3 | 16.4 | 17.3 | 10.7 | 24.1 | 23.9 | 25.0 |
| F 製 造 業 | 217.4 | 223.2 | 195.2 | 185.3 | 185.7 | 183.8 | 32.1 | 37.5 | 11.4 | 24.5 | 24.7 | 24.0 |
| 18 食 料 品 | 205.9 | 216.5 | 187.0 | 185.4 | 187.5 | 181.6 | 20.5 | 29.0 | 5.4 | 24.4 | 25.1 | 23.2 |
| 20 織 維 工 業 | 184.4 | 195.9 | 181.4 | 181.9 | 190.0 | 179.8 | 2.5 | 5.9 | 1.6 | 22.7 | 23.5 | 22.5 |
| 21 衣 服 其 他 織 維 製 品 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 22 木 材 木 製 品 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 26 化 学 工 業 | 218.0 | 226.1 | 201.4 | 193.1 | 193.4 | 192.5 | 24.9 | 32.7 | 8.9 | 25.6 | 25.6 | 25.7 |
| 30 窯 業 土 石 製 品 | 213.0 | 215.8 | 196.8 | 184.4 | 184.1 | 185.9 | 28.6 | 31.7 | 10.9 | 24.6 | 24.6 | 24.6 |
| 32 非 鉄 金 属 品 | 200.6 | 202.3 | 187.4 | 169.2 | 168.5 | 173.4 | 31.4 | 33.8 | 14.0 | 23.1 | 23.0 | 23.6 |
| 33 金 属 製 品 | 225.5 | 225.5 | 225.3 | 179.6 | 178.4 | 184.8 | 45.9 | 47.1 | 40.5 | 24.1 | 24.0 | 24.6 |
| 34 機 械 製 造 業 | 220.2 | 223.9 | 201.3 | 192.7 | 192.1 | 195.3 | 27.5 | 31.8 | 5.9 | 24.2 | 24.1 | 24.7 |
| 35 電 気 機 器 具 製 造 業 | 223.8 | 229.1 | 199.9 | 186.4 | 186.8 | 184.7 | 37.4 | 42.3 | 15.2 | 24.9 | 24.9 | 24.4 |
| 19.38.39 そ の 他 | 193.9 | 203.9 | 182.0 | 182.3 | 189.6 | 173.7 | 11.6 | 14.3 | 8.3 | 23.6 | 24.5 | 22.6 |
| G 卸 売 及 び 小 売 業 | 196.9 | 190.4 | 213.0 | 188.3 | 180.6 | 207.4 | 8.6 | 9.8 | 5.6 | 25.8 | 25.5 | 26.6 |
| H 金 融 保 険 業 | 189.5 | 185.5 | 195.8 | 178.4 | 175.1 | 183.7 | 11.1 | 10.4 | 12.1 | 25.4 | 25.1 | 25.8 |
| J 運 輸 通 信 業 | 188.7 | 190.4 | 178.4 | 177.9 | 179.3 | 169.2 | 10.8 | 11.1 | 9.2 | 22.9 | 23.0 | 22.5 |
| K 電 気 ガ ス 水 道 業 | 170.7 | 172.2 | 154.1 | 160.4 | 161.2 | 151.0 | 10.3 | 11.0 | 3.1 | 23.5 | 23.6 | 21.7 |
| L 医 療 保 健 業 | 204.2 | 209.2 | 201.0 | 190.0 | 194.5 | 187.1 | 14.2 | 14.7 | 13.9 | 24.8 | 25.4 | 24.5 |
| 生 産 労 働 者 | | | | | | | | | | | | |
| D 鉱 業 | 189.5 | 190.0 | 180.2 | 167.2 | 167.2 | 166.7 | 22.3 | 22.8 | 13.5 | 22.6 | 22.7 | 22.5 |
| E 建 設 業 | 194.2 | 197.3 | 176.2 | 178.8 | 181.1 | 165.8 | 15.4 | 16.2 | 10.4 | 23.7 | 23.5 | 24.9 |
| F 製 造 業 | 216.4 | 222.7 | 193.5 | 184.1 | 184.5 | 182.6 | 32.3 | 38.2 | 10.9 | 24.3 | 24.5 | 23.7 |
| 18 食 料 品 | 205.5 | 218.5 | 184.3 | 183.0 | 185.0 | 179.6 | 22.5 | 33.5 | 4.7 | 24.2 | 25.0 | 22.8 |
| 20 織 維 工 業 | 184.2 | 204.2 | 180.0 | 181.9 | 196.0 | 180.0 | 2.3 | 8.2 | 1.5 | 22.8 | 24.7 | 22.6 |
| 21 衣 服 其 他 織 維 製 品 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 22 木 材 木 製 品 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 26 化 学 工 業 | 216.5 | 226.7 | 199.5 | 192.2 | 192.4 | 191.9 | 24.3 | 34.3 | 7.6 | 25.6 | 25.6 | 25.6 |
| 30 窯 業 土 石 製 品 | 214.7 | 217.9 | 194.2 | 183.4 | 183.5 | 182.5 | 31.3 | 34.4 | 11.7 | 24.2 | 24.2 | 24.0 |
| 32 非 鉄 金 属 品 | 203.2 | 204.9 | 189.4 | 167.4 | 166.6 | 174.7 | 35.8 | 38.3 | 14.7 | 22.9 | 22.8 | 23.6 |
| 33 金 属 製 品 | 227.8 | 226.3 | 235.2 | 180.7 | 178.5 | 191.4 | 47.1 | 47.8 | 43.8 | 24.3 | 24.0 | 25.6 |
| 34 機 械 製 造 業 | 218.8 | 221.9 | 200.4 | 190.2 | 189.6 | 193.3 | 28.6 | 32.3 | 7.1 | 23.9 | 23.8 | 24.5 |
| 35 電 気 機 器 具 製 造 業 | 221.6 | 226.9 | 198.2 | 185.0 | 185.4 | 183.6 | 36.6 | 41.5 | 14.6 | 24.5 | 24.6 | 24.2 |
| 19.38.39 そ の 他 | 193.6 | 209.1 | 179.1 | 181.1 | 192.3 | 170.7 | 12.5 | 16.8 | 8.4 | 23.3 | 24.4 | 22.2 |
| 管 理 事 務 及 び 技 術 労 働 者 | | | | | | | | | | | | |
| D 鉱 業 | 195.5 | 200.6 | 174.8 | 179.2 | 182.1 | 167.6 | 16.3 | 18.5 | 7.2 | 25.2 | 25.4 | 25.2 |
| E 建 設 業 | 204.5 | 204.7 | 202.7 | 185.9 | 185.4 | 191.1 | 18.6 | 19.3 | 11.6 | 24.9 | 24.8 | 25.5 |
| F 製 造 業 | 220.0 | 224.5 | 200.2 | 188.6 | 188.9 | 187.3 | 31.4 | 35.6 | 12.9 | 25.1 | 25.2 | 24.6 |
| 18 食 料 品 | 207.7 | 209.4 | 202.9 | 195.5 | 196.2 | 193.5 | 12.2 | 13.2 | 9.4 | 25.6 | 25.8 | 25.3 |
| 20 織 維 工 業 | 185.0 | 188.4 | 179.8 | 181.9 | 184.6 | 177.6 | 3.1 | 3.8 | 2.2 | 22.3 | 22.4 | 22.2 |
| 21 衣 服 其 他 織 維 製 品 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 22 木 材 木 製 品 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 26 化 学 工 業 | 221.6 | 225.0 | 209.5 | 195.4 | 195.5 | 195.3 | 26.2 | 29.5 | 14.2 | 25.8 | 25.7 | 26.0 |
| 30 窯 業 土 石 製 品 | 206.5 | 207.1 | 204.0 | 188.5 | 186.9 | 195.4 | 18.0 | 20.2 | 8.6 | 26.1 | 26.0 | 26.1 |
| 32 非 鉄 金 属 品 | 194.4 | 196.3 | 184.4 | 173.1 | 173.4 | 171.5 | 21.3 | 22.9 | 12.9 | 23.6 | 23.6 | 23.5 |
| 33 金 属 製 品 | 203.2 | 214.5 | 184.5 | 169.1 | 176.1 | 157.5 | 34.1 | 38.4 | 27.0 | 22.4 | 23.6 | 20.3 |
| 34 機 械 製 造 業 | 224.9 | 232.6 | 203.0 | 201.7 | 202.6 | 199.3 | 23.2 | 30.0 | 3.7 | 25.3 | 25.4 | 25.0 |
| 35 電 気 機 器 具 製 造 業 | 228.6 | 233.6 | 203.7 | 189.4 | 189.8 | 187.2 | 39.2 | 43.8 | 16.5 | 25.3 | 25.4 | 24.8 |
| 19.38.39 そ の 他 | 194.0 | 192.8 | 200.6 | 186.3 | 183.8 | 193.3 | 8.5 | 9.0 | 7.3 | 24.7 | 24.6 | 24.9 |

第3表 産業常用労働者の種類及び性別月末及び増加減少推計労働者数並びに産業別臨時及び日雇労働者の月間推計延人員（規模30人以上）（単位、人）

| 前月末労働者数 | | | 本月中の増加 | | | 本月中の減少 | | | 本月末労働者数 | | | 臨時及び日雇労働者の月間推計延人員 |
|---------|--------|--------|--------|-------|-----|--------|-------|-----|---------|--------|--------|-------------------|
| 総数 | 男子 | 女子 | 総数 | 男子 | 女子 | 総数 | 男子 | 女子 | 総数 | 男子 | 女子 | |
| 86,106 | 70,068 | 16,038 | 2,746 | 2,244 | 502 | 1,692 | 1,256 | 436 | 87,160 | 71,056 | 16,104 | 72,538 |
| 11,355 | 10,542 | 813 | 195 | 151 | 44 | 225 | 190 | 35 | 11,325 | 10,503 | 822 | 9,489 |
| 4,070 | 3,560 | 510 | 283 | 197 | 86 | 297 | 270 | 27 | 4,056 | 3,487 | 569 | 43,145 |
| 52,356 | 41,386 | 10,970 | 2,022 | 1,737 | 285 | 955 | 667 | 288 | 53,423 | 42,456 | 10,967 | 12,339 |
| 2,318 | 1,474 | 844 | 28 | 23 | 5 | 29 | 6 | 23 | 2,317 | 1,491 | 826 | 1,896 |
| 1,491 | 306 | 1,185 | 18 | 8 | 10 | 34 | 8 | 26 | 1,475 | 306 | 1,169 | 1,828 |
| — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 1,086 | 728 | 358 | 8 | 6 | 2 | 13 | 7 | 6 | 1,081 | 727 | 354 | 299 |
| 1,898 | 1,619 | 279 | 34 | 23 | 11 | 19 | 10 | 9 | 1,913 | 1,632 | 281 | 2,792 |
| 5,018 | 4,395 | 623 | 52 | 45 | 7 | 20 | 14 | 6 | 5,050 | 4,426 | 624 | — |
| 1,748 | 1,420 | 328 | 66 | 31 | 35 | 102 | 68 | 34 | 1,712 | 1,383 | 329 | 118 |
| 4,136 | 3,420 | 716 | 282 | 268 | 14 | 39 | 29 | 10 | 4,379 | 3,659 | 720 | — |
| 26,312 | 21,542 | 4,770 | 1,284 | 1,134 | 150 | 549 | 421 | 128 | 27,047 | 22,255 | 4,792 | 1,189 |
| 2,213 | 1,194 | 1,019 | 81 | 47 | 34 | 58 | 26 | 32 | 2,236 | 1,215 | 1,021 | 814 |
| 4,682 | 3,329 | 1,353 | 34 | 15 | 19 | 82 | 42 | 40 | 4,634 | 3,302 | 1,332 | 238 |
| 2,452 | 1,496 | 956 | 66 | 29 | 37 | 57 | 25 | 32 | 2,461 | 1,500 | 961 | — |
| 9,753 | 8,429 | 1,324 | 135 | 104 | 31 | 64 | 50 | 14 | 9,824 | 8,483 | 1,341 | 7,150 |
| 1,438 | 1,326 | 112 | 11 | — | 11 | 12 | — | 12 | 1,437 | 1,325 | 112 | 177 |
| 3,444 | 1,353 | 2,091 | 50 | 19 | 31 | 21 | 3 | 18 | 3,473 | 1,369 | 2,104 | 1,074 |
| 9,780 | 9,286 | 494 | 159 | 121 | 38 | 212 | 181 | 31 | 9,727 | 9,226 | 501 | — |
| 2,759 | 2,364 | 395 | 266 | 186 | 80 | 288 | 261 | 27 | 2,737 | 2,289 | 448 | — |
| 37,913 | 29,626 | 8,287 | 1,612 | 1,393 | 219 | 809 | 554 | 255 | 38,716 | 30,465 | 8,251 | — |
| 1,868 | 1,141 | 727 | 28 | 23 | 5 | 27 | 5 | 22 | 1,869 | 1,159 | 710 | — |
| 1,227 | 143 | 1,084 | 13 | 7 | 6 | 30 | 4 | 26 | 1,210 | 146 | 1,064 | — |
| — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 774 | 483 | 291 | 4 | 4 | — | 8 | 3 | 5 | 770 | 484 | 286 | — |
| 1,520 | 1,314 | 206 | 27 | 16 | 11 | 18 | 9 | 9 | 1,529 | 1,321 | 208 | — |
| 3,481 | 3,111 | 370 | 47 | 41 | 6 | 11 | 9 | 2 | 3,517 | 3,143 | 374 | — |
| 1,572 | 1,306 | 266 | 62 | 31 | 31 | 89 | 55 | 34 | 1,545 | 1,282 | 263 | — |
| 3,218 | 2,737 | 481 | 271 | 264 | 7 | 36 | 26 | 10 | 3,453 | 2,975 | 478 | — |
| 17,856 | 14,523 | 3,333 | 144 | 837 | 107 | 456 | 353 | 103 | 18,344 | 15,007 | 3,337 | — |
| 1,696 | 812 | 884 | 68 | 37 | 31 | 50 | 19 | 31 | 1,714 | 830 | 884 | — |
| 1,575 | 1,256 | 319 | 36 | 30 | 6 | 13 | 9 | 4 | 1,598 | 1,277 | 321 | — |
| 1,311 | 1,196 | 115 | 17 | 11 | 6 | 9 | 9 | — | 1,319 | 1,198 | 121 | — |
| 14,443 | 11,760 | 2,683 | 410 | 344 | 66 | 146 | 113 | 33 | 14,707 | 11,991 | 2,716 | — |
| 450 | 333 | 117 | — | — | — | 2 | 1 | 1 | 448 | 332 | 116 | — |
| 264 | 163 | 101 | 5 | 1 | 4 | 4 | 4 | — | 265 | 160 | 105 | — |
| — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 312 | 245 | 67 | 4 | 2 | 2 | 5 | 4 | 1 | 311 | 243 | 68 | — |
| 378 | 305 | 73 | 7 | 7 | — | 1 | 1 | — | 384 | 311 | 73 | — |
| 1,537 | 1,284 | 253 | 5 | 4 | 1 | 9 | 5 | 4 | 1,533 | 1,283 | 250 | — |
| 176 | 114 | 62 | 4 | — | 4 | 13 | 13 | — | 167 | 101 | 66 | — |
| 918 | 683 | 235 | 11 | 4 | 7 | 3 | 3 | — | 926 | 684 | 242 | — |
| 8,456 | 7,019 | 1,437 | 340 | 297 | 43 | 93 | 68 | 25 | 8,703 | 7,248 | 1,455 | — |
| 517 | 382 | 135 | 13 | 10 | 3 | 8 | 7 | 1 | 522 | 385 | 137 | — |



色々の表

手形交換高 (水戸)

| 月 別 | 昭和 34 年 | | 昭和 35 年 | |
|-----|---------|-----------|---------|-----------|
| | 枚 数 | 金 額 | 枚 数 | 金 額 |
| 1 月 | 12,811 | 4,841,632 | 13,230 | 4,966,682 |
| 2 月 | 13,509 | 4,413,696 | 16,010 | 5,197,937 |
| 3 月 | 14,137 | 5,036,839 | 15,491 | 5,667,775 |

と畜頭数と枝肉量 (枝肉量の単位=kg)

| 年 月 別 | 総 数 | | 役 肉 牛 | | 乳 用 牛 | | と く(仔牛) | |
|-------------|--------|-----------|-------|--------|-------|--------|---------|-------|
| | 頭 数 | 枝 肉 量 | 頭 数 | 枝 肉 量 | 頭 数 | 枝 肉 量 | 頭 数 | 枝 肉 量 |
| 昭和 35 年 1 月 | 15,199 | 821,602 | 470 | 93,207 | 73 | 12,825 | 170 | 4,454 |
| 2 月 | 18,134 | 960,471 | 424 | 90,304 | 85 | 16,088 | 148 | 4,266 |
| 3 月 | 21,492 | 1,081,161 | 422 | 82,913 | 74 | 11,819 | 127 | 3,537 |

| 年 月 別 | 馬 | | 豚 | | め ん 羊 | | 山 羊 | |
|-------|-----|--------|--------|---------|-------|-------|-----|--------|
| | 頭 数 | 枝 肉 量 | 頭 数 | 枝 肉 量 | 頭 数 | 枝 肉 量 | 頭 数 | 枝 肉 量 |
| 1 月 | 252 | 44,692 | 13,641 | 655,904 | 78 | 1,577 | 515 | 8,943 |
| 2 月 | 220 | 40,181 | 16,633 | 797,950 | 66 | 1,391 | 558 | 10,291 |
| 3 月 | 197 | 31,631 | 19,646 | 934,562 | 162 | 3,042 | 864 | 13,657 |

注 資料は県環境衛生課、数値は県下29と畜場の合計である。

牛乳と山羊乳処理量 (単位リットル)

| 月 別 | 殺 菌 牛 乳 | | | 殺 菌 山 羊 乳 | | |
|---------|-----------|---------|---------|-----------|---------|-------|
| | 62°C~65°C | 75°C 以上 | 計 | 62°C~65°C | 75°C 以上 | 計 |
| 35年 1 月 | 412,900 | 392,520 | 805,420 | 1,566 | 0 | 1,566 |
| 2 月 | 695,981 | 287,458 | 983,439 | 1,420 | 0 | 1,420 |
| 3 月 | 645,770 | 248,628 | 894,398 | 1,620 | 0 | 1,620 |

注 殺菌牛乳とは特別牛乳以外の牛乳及び加工乳脱脂乳



昭和35年国勢調査とは

(その2)

どんな調査か

昭和35年国勢調査令が、昭和35年4月25日政令第106号で公布された。12条からなり、趣旨・定義・調査時・調査の対象・調査の方法・調査事項等・申告の義務・調査の執行及び機関・国勢調査指導員等・事務を行なう期間・調査票の提出・事故のときの処置についてそれぞれ規定している。これで、35年国勢調査もいよいよ本格的に第1歩を踏み出したことになる。

一方総理府統計局では、さる1月5日に昭和35年国勢調査実施本部を設置し、調査実施のための諸準備を進めてきたが、このほどその調査要綱がまとまった。この要綱による集計の方法、結果の公表などのあらまはは次のとおりである。

その1 集計の方法および事項

集計は、全数集計、1%抽出集計および10%抽出集計とし、中央集査の方法で統計局で集計されることは従来と変わらないが、今回はIBM社の705型電子計算機を用いて集計する。なお集計事項のうち全数集計集計事項は別表のとおりである。

その2 結果の公表

全数集計は、都道府県ごとに行ない、集計の完了した都道府県ごとに結果報告書を刊行し、昭和38年7月末日までに完了する。

全数集計のうち、市町村別総人口は、昭和36年5月末日までに集計を完了し、これを官報で告示する。

1%抽出集計は、昭和36年10月末日までに集計を完了し、結果報告書を刊行する。

10%抽出集計は、昭和39年3月末日までに集計を完了して、結果報告書を刊行する。

お気付のように結果集計期間の短縮が今日の調査では一つの特徴で、とくに全数集計結果の集計は、前回の調査の場合に比し、実質的に約1カ年早めてある。

別表

昭和35年国勢調査の全数集計集計事項

- 凡例 表章地域の全は、全国・市郡・郡部
- 県は、都道府県・市部・郡部
- 市は、各市区
- 町は、町および村

ただし、※印の表は各市区町村を人口密集地区、人口非密集地区に分ける。

| 表章 | 地域 |
|------|---|
| 第1表 | 年齢(各才)および男女別人口 (町村は5才)……………全, 県, 市, 町※ |
| 第2表 | 年齢(各才)および男女別日本人数…全 |
| 第3表 | 年齢(5才階級)配偶関係(5区分)および男女別15才以上人口……………全, 県, 市, 町※ |
| 第4表 | 外国人の国籍(8区分)および男女別人口……………全, 県 |
| 第5表 | 1年前の常住地(50区分)および男女別1才以上人口……………全, 県, 六大都市 |
| 第6表 | 労働力状態(9区分)および男女別15才以上人口……………全, 県, 市, 町※ |
| 第7表 | 産業(中分類)従業上の地位(10区分)および男女別15才以上就業者数…全, 県 |
| 第8表 | 産業(中分類)および男女別15才以上就業者数……………市 |
| 第9表 | 産業(大分類)従業上の地位(10区分)および男女別15才以上就業者数…市, 町※ |
| 第10表 | 職業(中分類)従業上の地位(10区分)および男女別15才以上就業者数…全, 県 |
| 第11表 | 職業(大分類)および男女別15才以上就業者数……………市, 町※ |
| 第12表 | 就業時間(5区分)従業上の地位(4区分)および男女別15才以上従業中の就業者数……………全, 県, 市, 町 |
| 第13表 | 在学か否かの別(4区分)卒業者の学歴(8区分)および男女別15才以上人口……………全, 県, 市, 町※ |
| 第14表 | 年齢(5才階級)別15才以上既婚日本人女子数, 出生児数および平均出生児数……………全, 県, 市, 町※ |
| 第15表 | 世帯の種類(11区分)および普通世帯の世帯人員(11区分)別世帯数および世帯人員……………全, 県, 市, 町※ |
| 第16表 | 住居の種類(3区分)および住宅の所有の関係(4区分)別普通世帯数, 世帯人員, 畳数および1人当り畳数(1人の準世帯特掲)……………全, 県, 市, 町※ |
| 第17表 | 世帯主の労働力状態(4区分)産業(大分類)別普通世帯数および普通世帯人員……………全, 県, 市, 町※ |
| 第18表 | 家計の収入の種類(12区分)別普通世帯数……………全, 県, 市, 町 |
| 第19表 | 常住地によって区分した従業, 通学地別15才以上就業者, 通学者数……………市, 町 |
| 第20表 | 従業, 通学地によって区分した常住地別15才以上就業者, 通学者……………市, 町 |
| 第21表 | 従業, 通学地または常住地によって区分した産業(大分類)別15才以上就業者数および通学者数……………全, 県, 市, 町 |

新市町村の横顔

那珂郡 瓜連町



(中井川町長)

この町は那珂郡のほぼ中央に
位し、北は大宮町に、東から南
さらに西にわたつて、ふところ
に抱かれるように那珂町に接し
ている。水戸から水郡線で約30
分、バスでは大宮行に乗り40分
でこの町に着く。

瓜連の瓜はアイヌ語で丘とい
い、丘が連なっている所から瓜
連の名が起きたというが、ここ
は昔から人家が密集して宿駅を形成し、水戸から郡山に
通ずる白河街道上の要所で、役場わきにある常福寺を中
心に商工家が櫛比していた。この地方は昔は常陸国久慈
西部に属し、徳川頼房卿が水戸に封ぜられてから 260余
年水戸藩の藩政下になり、明治に至つた。

明治21年町村制の施行で、旧来の瓜連、中里、古徳の
3村が合併して瓜連村となり、昭和9年6月10日町とな
つた。さらに昭和30年3月31日瓜連町と静村大字静、下
大賀が合併し、昭和32年7月1日に木崎村大字鹿島の1
部(一区、二区)が編入され、現在の新しい瓜連町が誕
生した。

町の面積は県下で一番狭く(13.83km²)、人口密度は
郡部では大洗町、取手町に次いで高い(1km²当り516.7
人—昭和34年10月1日現在)

現在町の中央を国鉄水郡線が縦貫して瓜連と静の両駅
があり、水戸、瓜連、大宮、太田、瓜連、常北を結ぶ国
道、県道が通じていて、これによる交通網が発達してい
る。ことに最近久慈川にかかる栄橋の竣工により太田
を経て日立、東海に通じ、珂北優位の重要地点となつ
た。本年2月末現在の人口は7,165人(男3,485人女3,680
人)世帯数1,413である。

2. 産 業

この町の性格は矢張農村である。総農家数は914戸で
耕地面積は672ヘクタール(田300ヘクタール、畑368ヘク
タール)—昭和34年8月夏期農業基本調査—1戸当り耕
地は0.7~0.8ヘクタールである。農産物は主穀生産が主
で、これといった特産物はない。土地が狭いので、新町
建設の方向も有畜農家の創設を主とした多角農業経営を
目指している。岩上前町長時代から豚の飼育には力を入
れ、現在は多頭飼育といつて、1軒で1年に12頭を飼ひ
それを企業化することが企てられている。

簡単だが商業に移ると、町の商店会では、お客が水戸
に取られるのを防ぐためにサービス商店会を結成し、加
盟店は青い旗を立てて、サービス券を発行してお客への
サービスに努めている。

3. 教育文化

この町の有線放送は大へん活動をしているようであ
る。5時半から放送を開始し、9時5分に終る。放送番
組も、夏期、冬期に分けて組んである。現在町の65%が
加入しているが、近く行われる第2次拡充計画により85
%まで加入が伸びる予定だ。

話は変わるが、新農村建設事業で、最も住民に喜ばれた
のは、玉川・鹿島地区における給水施設の設置だつたそ
うだ。この地区は洪水地帯であるが、湧水を利用した給
水施設によりそれを解決した。

教育の面では二つのことを取り上げて見よう。その一
つは10年間続けられている成人学級のことである。これ
は農閑期を利用した12月から3カ月間、農家の2、3男
に職を持たせる為に関われる。今年は自動車の運転を習
得させることに力を入れた。こうした実績が認められて
今年文部省の特別指定を受け国民科学講座が設けられ
た。これは中学校が、文部省よりの産業指定校となつて
いることとも合せて、農村における子弟教育の一つのあ
り方を示しているともいえよう。

その2は、学校給食が大蔵大臣の表彰を受けたこと
である。この町では完全給食が行われているが、その給食
費を、児童が鶏を飼育し卵を売つてねん出している所に
特色があり表彰の対象となつたわけである。

町当局の話では、行政費のうち、投資的経費はおそら
く県下有数であろうとの事で、小粒な町ながらその意欲
はきわめておう盛といえよう。



(有線放送室)



統計と政治

新聞調査が世論ではない

4月28日付の朝日新聞夕刊に、このような見出しで、参院安保特別委員会での受田氏（民社）と岸首相との次ような質疑応答を報じている。

受田氏 新条約反対の世論が高まり、賛成論が後退して、衆院の解散を要求する世論が強くなっているが、これをどう考えるか。

首相 世論の動向には関心をもっている。新聞の世論調査がすべての世論だとは思わぬ。われわれとしても直接国民に接し、国会で政府の見解を明らかにしたい。

受田氏 政府は新条約の批准に関する世論調査をすべきだと思う。もしやるとすれば、どんな方法でやるか。

首相 適当な方法をとることは考えてもよい。どんな方法でやるかは、今いうべき段階ではない。

この問答を読んで、考えることは二つある。その一つは、新聞の世論調査はすべての世論だとは思わないという首相の考え方であり、もう一つは、首相の承認する世論はどんな方法で得られるかということである。

世論調査は、今日では最も親しまれている統計調査の一つとなっている。ただ統計法の解説（松田道夫著）では、統計法の対象となる統計としては、この世論調査と称されるものは統計調査の中を含めなかつたのが従来の取扱いであつた。

しかし、新聞社の行つている世論調査は、層別抽出法又は層化抽出法という標本調査で、統計調査としてはまづとうなものである。

したがつて、首相が新聞の世論調査はすべての世論だと思わないのは、新聞社が行つている調査は、一部の世論しか代表していない、信頼度の低い調査だとの考えを示すものであろう。

世論調査は標本調査（一部調査）であつて、全数調査ではないから、その調査がどの程度全体の世論に合致しているかは当然問題となるところである。

それでは、首相の答弁にあるように、直接国民に接して世論をつかむとしよう。首相のいう国民とは何か。全体かそれとも一部かということになる。適当な方法とはつまりてきとうな言葉ではないだろうか。

標本調査の利点として、この方法で調査すると信頼度の高いよい統計が得られることがあげられている。理由は略するが、この方法は、調査の計画準備の段階で研究と手間をかければ、全数調査におとらないといわれている。

統計の一番大事な仕事は、数字を土台にして物を考えること、判断をすることだ。（森田優三「統計読本」）民主国にあつては、国民の意志が政治に反映する仕組みが国民の意志は統計的方法によつて調査するのが一番合理的だと思うが、しかし、国民の意志が統計数字としてでてきた場合、それをどう判断し処理するかは政治家の良識にまつ外はない。

戦時下、統計はもつぱら軍事目的に利用されたので、戦後の統計は政治の圧力にまげられない機構の下におかれた。

統計が政治を正すことはあつても、政治が統計をまげることがあつてはならないのはいうまでもないが、最近世論は世論、政治は政治という傾向が目立つて来たような感じがしないでもない。もしそのような危くが危くでおわらないならば、統計は単なる数字の遊戯に終るであろうし、もし世論は忠実に政治に反映されているというならば、4月26日の国会周辺のデモ騒ぎなど、あのすさまじいエネルギーはどう処理されたらよいのか分らなくなつてくる。

国民は果して何を意志しているのか、ということを経計は冷静にとらえてもらいたいものだ。（良）